

ちょうさけっか がいよう 調査結果の概要

ちょうさけっか がいよう ほうこくしょ おも ちょうさけっか ぼっすい
調査結果の概要は、報告書から主な調査結果を抜粋したものである。

ほんちょうさ しょうたいしょうがいしゃ ちてきしょうがいしゃ せいしんしょうがいしゃ およ なんびょうかんじゃ ちょうさひよう じっし
本調査は、身体障害者、知的障害者、精神障害者及び難病患者それぞれの調査票により実施した。

ちょうさけっか ほうこくしょ だい しょう しょうたいしょうがいしゃ じょうきよう だい しょう ちてきしょうがいしゃ じょうきよう
調査結果は、報告書の「第2章 身体障害者の状況(21p～100p)」「第3章 知的障害者の状況(101p～163p)」「第4章 精神障害者の状況(165p～229p)」「第5章 難病患者の状況(231p～307p)」にそれぞれの障害、難病ごとに掲載した。

また、それぞれの障害及び難病の調査票に共通で、相互に比較することが可能なものは、「第6章 身体障害者・知的障害者・精神障害者・難病患者の状況(309p～331p)」に掲載した。

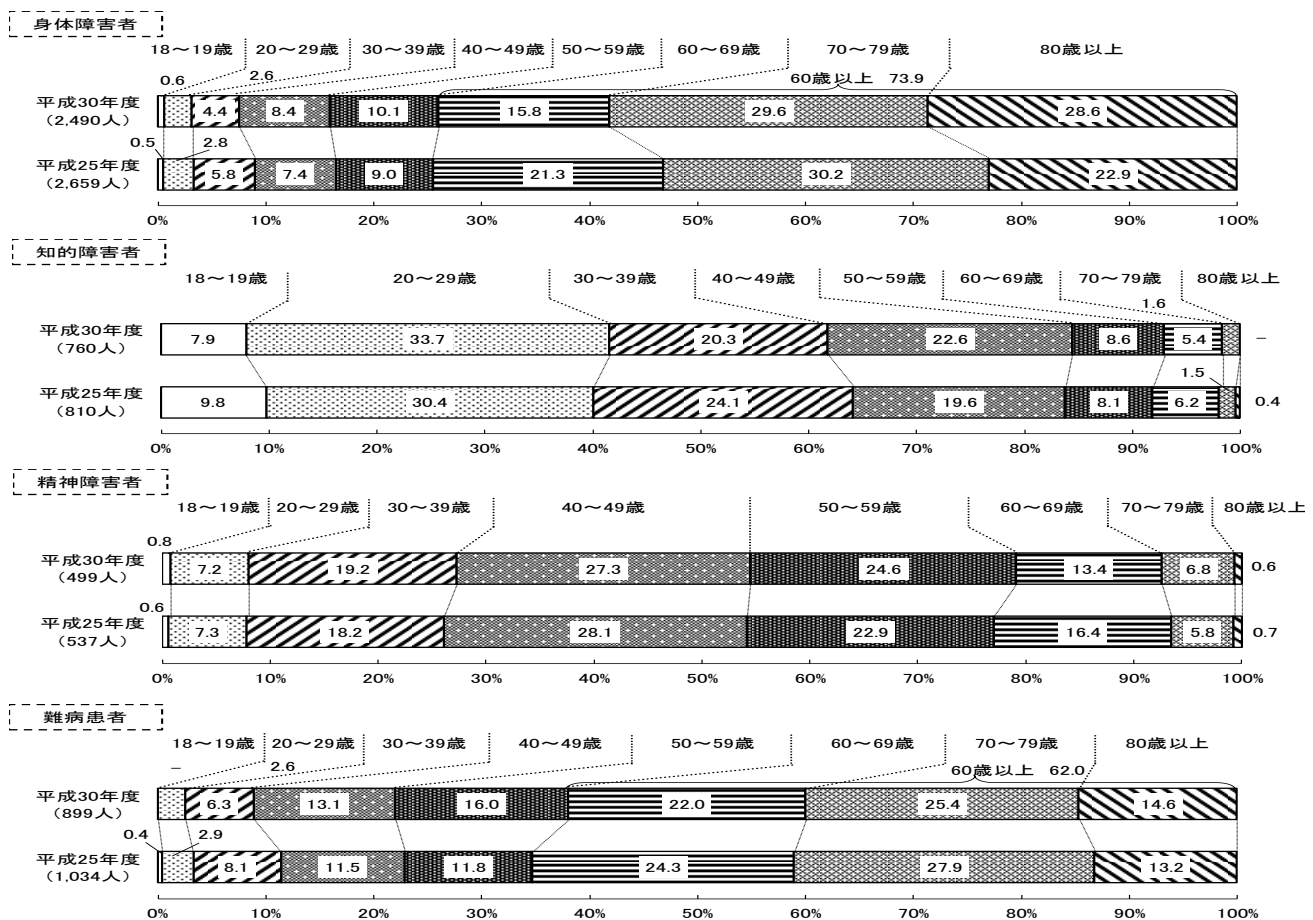
○ しょうたいしょうがいしゃ ちてきしょうがいしゃ せいしんしょうがいしゃ なんびょうかんじゃ じょうきよう 身体障害者・知的障害者・精神障害者・難病患者の状況

ほうこくしょ だい しょう しょうたいしょうがいしゃ ちてきしょうがいしゃ せいしんしょうがいしゃ なんびょうかんじゃ じょうきよう
※報告書「第6章 身体障害者・知的障害者・精神障害者・難病患者の状況(309p～331p)」からの主な調査結果の抜粋

1 かいとうしゃ がいきよう ねんれいかいきぎゅう 回答者の概況(年齢階級)

かいとうしゃ ねんれいかいきぎゅう しょうたいしょうがいしゃ だい かりあい ちてきしょうがいしゃ だい
回答者の年齢階級をみると、身体障害者では70代の割合が29.6%、知的障害者では20代が33.7%、精神障害者では40代が27.3%、難病患者では70代が25.4%となっている。60歳以上の割合について、身体障害者では73.9%、難病患者では62.0%となっている。(図VI-1-2 本文310p)

ず 6 ねんれいかいきぎゅう
図VI-1-2 年齢階級



2 住居の種類

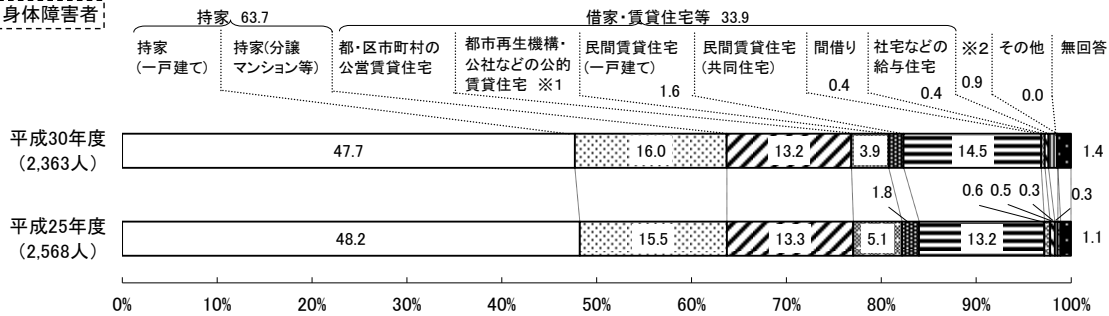
在宅で生活している人に住居の種類を聞いたところ、「持家」の割合は、身体障害者では63.7%、知的障害者では53.4%、精神障害者では39.5%、難病患者では69.7%となっている。

(図VI-2-1 本文331p)

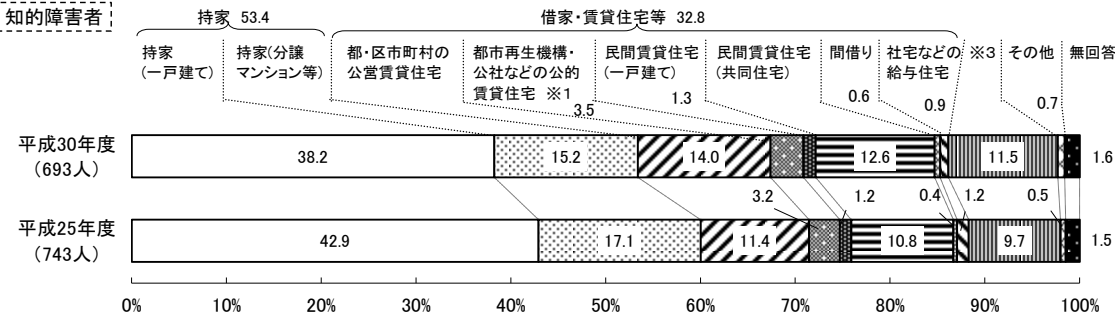
注) 住居の種類については、所有、賃貸の名義が対象者本人と限定していない。そのため、家族等の名義になっている場合も含まれており、必ずしも対象者本人が住居の所有者又は賃貸の名義人とは限らない。

図VI-2-1 住居の種類

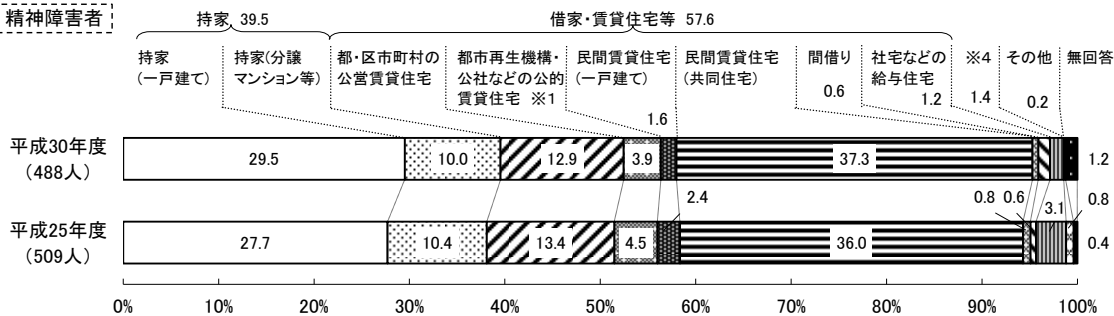
身体障害者



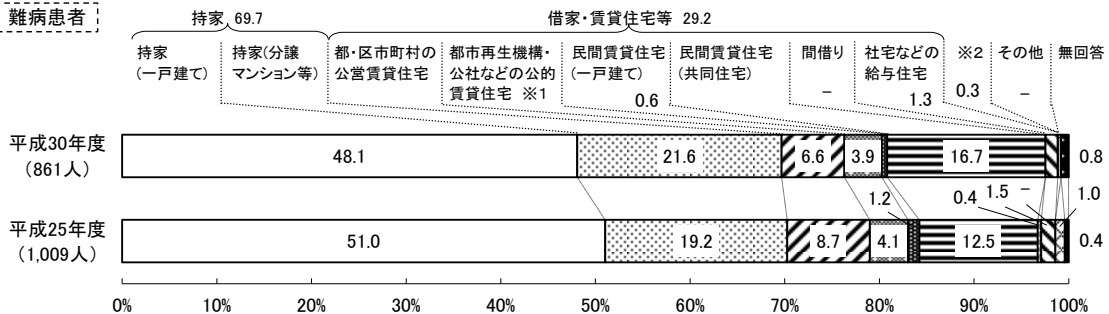
知的障害者



精神障害者



難病患者



- 注 1) ※1 は、平成25年度調査では「都市機構 (旧 公団)・公社などの賃貸住宅」としていた。
- 2) ※2 は、福祉ホーム、グループホーム、重度身体障害者グループホームである。なお、平成25年度調査では「福祉ホーム、グループホーム、ケアホーム、重度身体障害者グループホーム」としていた。
- 3) ※3 は、グループホームである。なお、平成25年度調査では「グループホーム、ケアホーム」としていた。
- 4) ※4 は、福祉ホーム、グループホームである。なお、平成25年度調査では「福祉ホーム、グループホーム、ケアホーム」としていた。

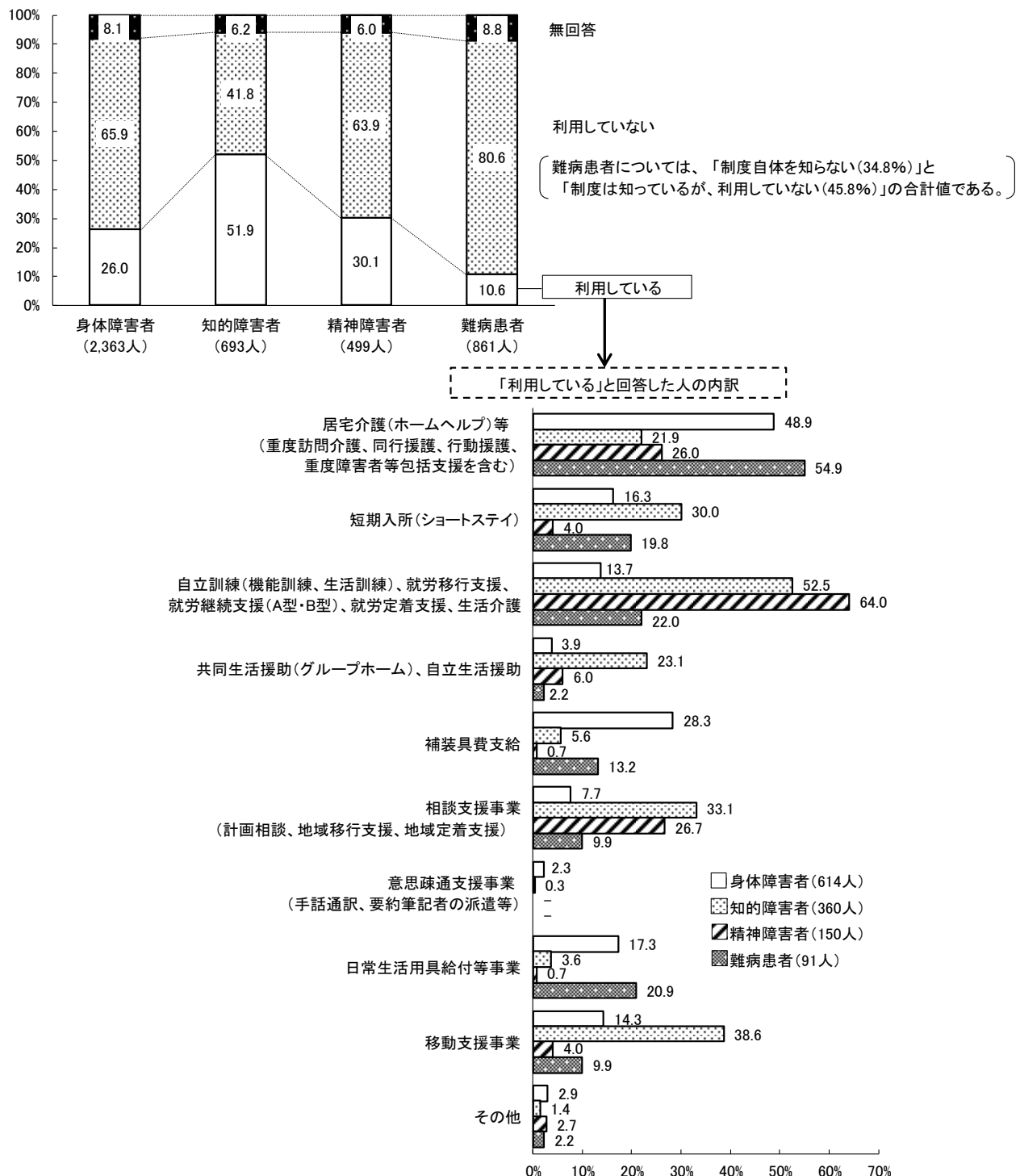
3 障害者総合支援法による障害福祉サービス等の利用状況〔複数回答〕

在宅で生活している人に、過去1年間の障害者総合支援法による障害福祉サービスの利用状況を聞いたところ(※)、「利用している」の割合は、身体障害者では26.0%、知的障害者では51.9%、精神障害者では30.1%、難病患者では10.6%となっている。

利用したサービスの内容は、身体障害者及び難病患者では「居宅介護(ホームヘルプ等)」の割合がそれぞれ48.9%、54.9%、知的障害者及び精神障害者では「自立訓練、就労移行支援、就労継続支援、就労定着支援、生活介護」がそれぞれ52.5%、64.0%となっている。(図VI-8-1 本文323p)

注) ※精神障害者は全員に質問

図VI-8-1 障害者総合支援法による障害福祉サービスの利用状況〔複数回答〕

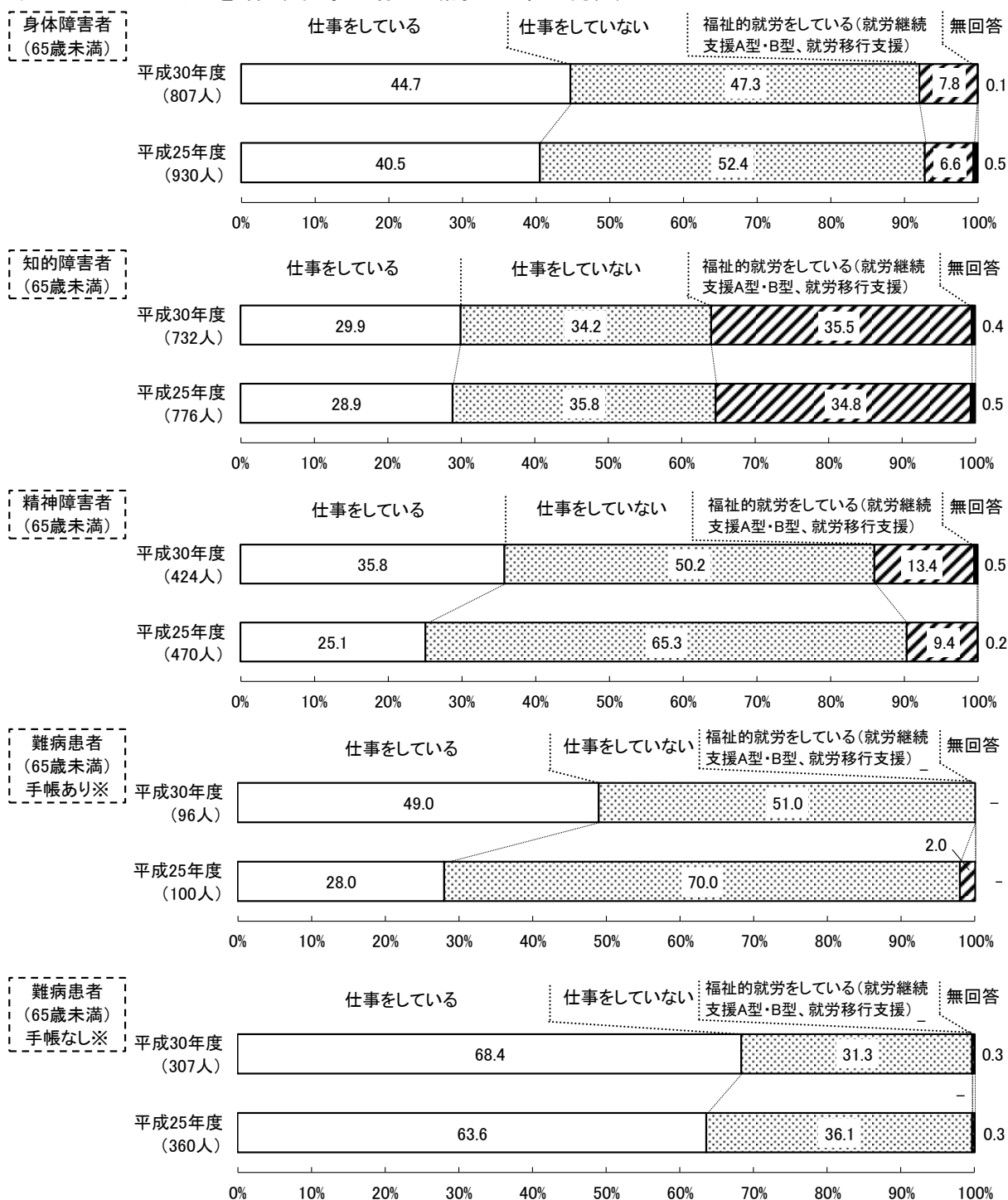


4 収入を伴う仕事の有無〔調査基準日現在〕

収入を伴う仕事をしているか聞いたところ、65歳未満で「仕事をしている」の割合は、身体障害者では44.7%、知的障害者では29.9%、精神障害者では35.8%、難病患者の手帳（※）ありでは49.0%、手帳なしでは68.4%となっている。「福祉的就労をしている」の割合は、身体障害者では7.8%、知的障害者では35.5%、精神障害者では13.4%、難病患者では該当者がいなかった。

平成25年度調査と比べて、「仕事をしている」の割合は、精神障害者では10.7ポイント増加している。（図VI-7-1 本文319p）

図VI-7-1 収入を伴う仕事の有無〔調査基準日現在〕

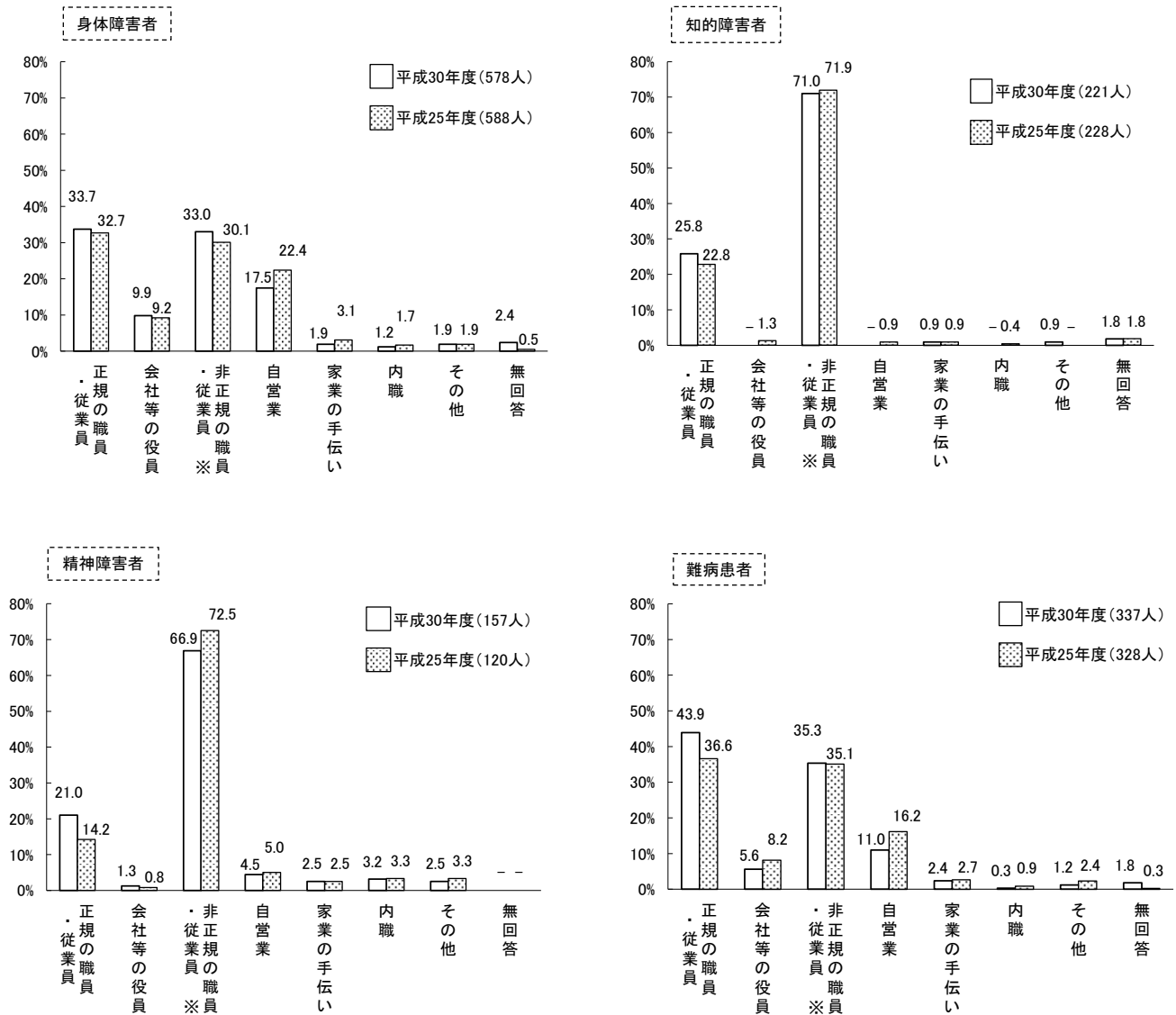


注）※「手帳」は、身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかを指している。

5 仕事の種類〔複数回答〕

仕事をしている人に仕事の種類を聞いたところ、身体障害者及び難病患者では「正規の職員・従業員」の割合がそれぞれ 33.7%、43.9%となっている。知的障害者及び精神障害者では「非正規の職員・従業員」の割合が最も高くなっている（知的障害者71.0%、精神障害者66.9%）。（図VI-7-2 本文320p）

図VI-7-2 仕事の種類〔複数回答〕

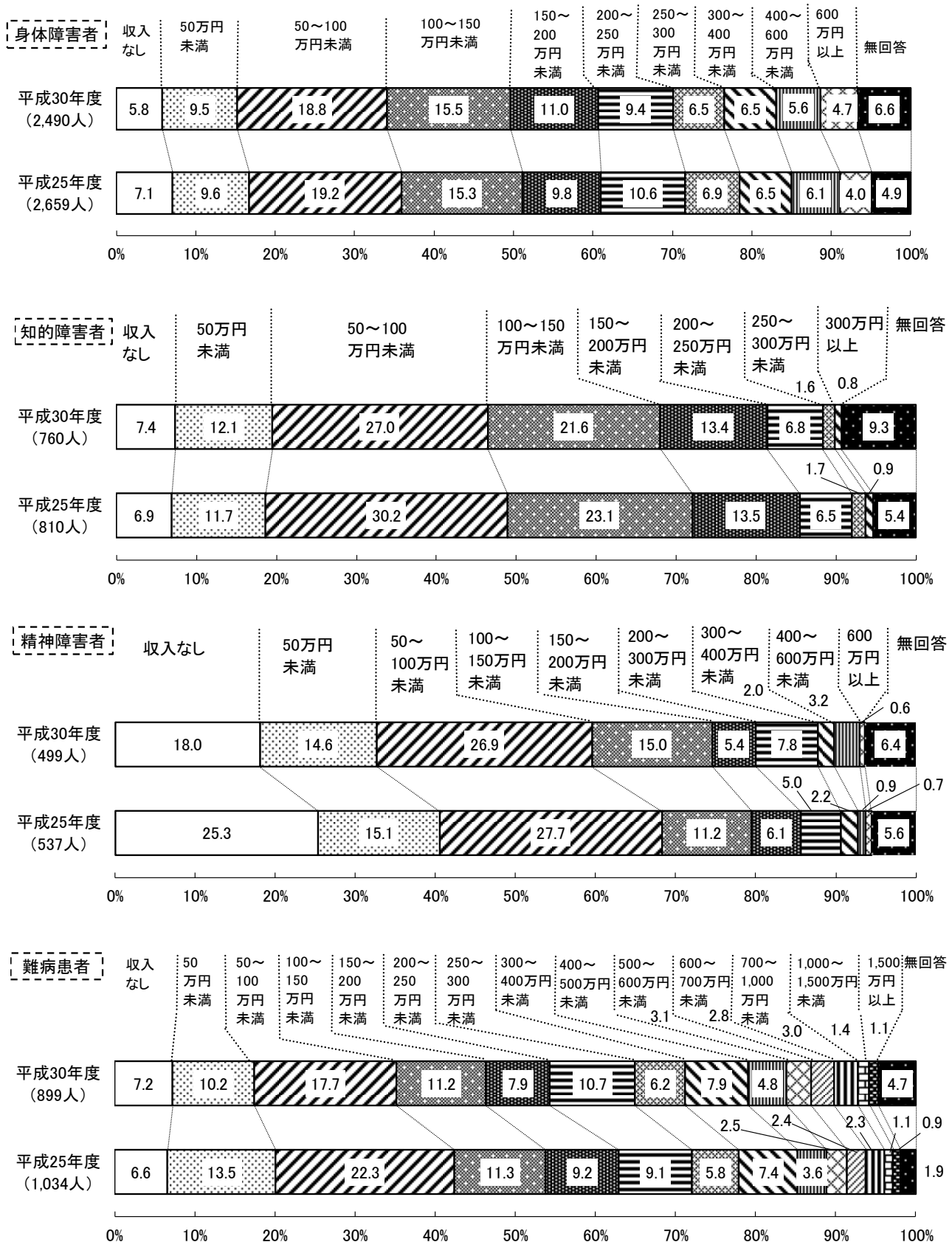


注) ※非正規の職員・従業員には、「パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員）」を含む。

6 年間収入額（生活保護費を除く）

平成29年中の収入額（生活保護費を除く）を聞いたところ、「50～100万円未満」の割合は、身体障害者では18.8%、知的障害者では27.0%、精神障害者では26.9%、難病患者では17.7%となっている。（図VI-5-1 本文314p）

図VI-5-1 年間収入額（生活保護費を除く）

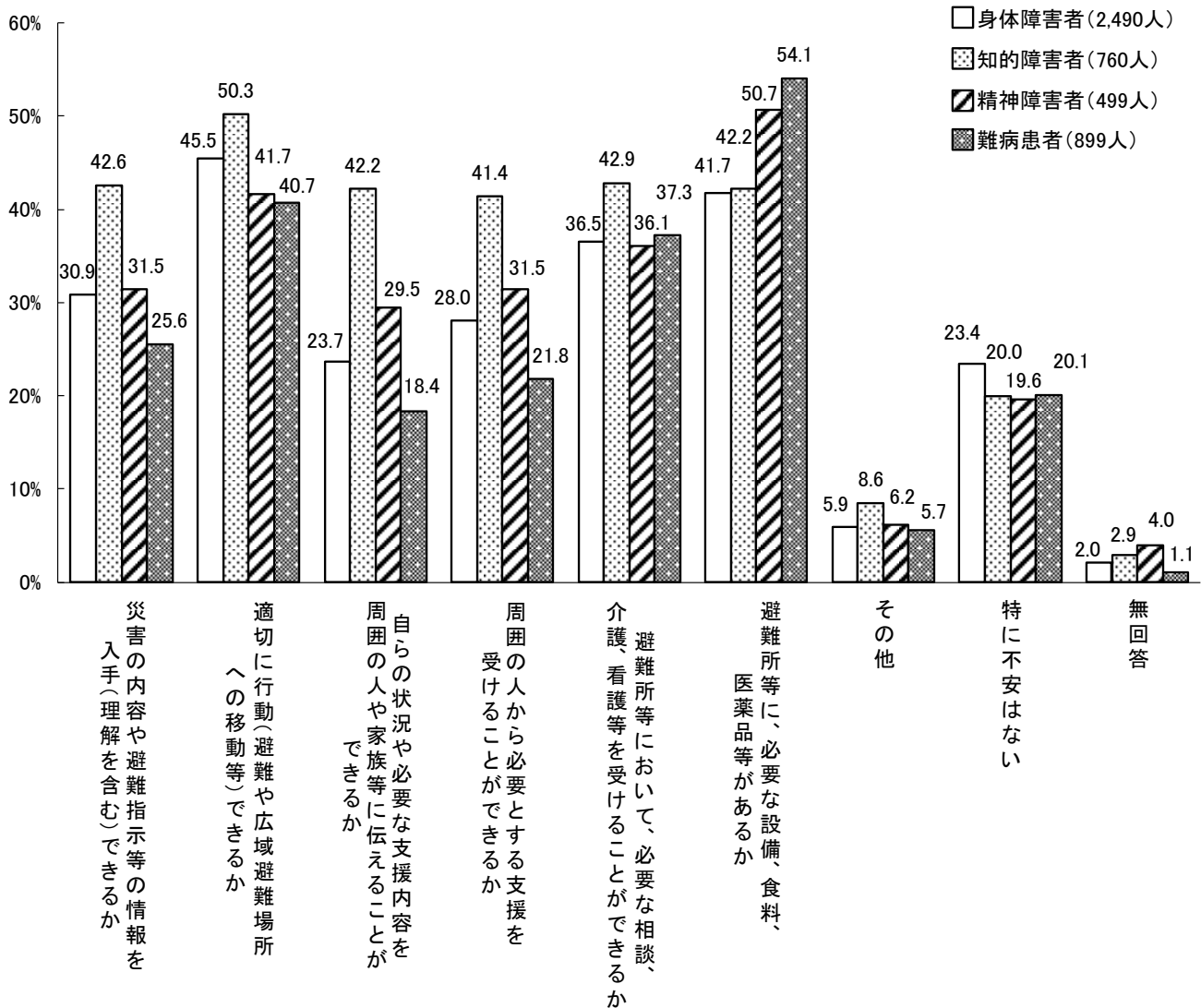


7 さいがい 災害関係

(1) さいがいじ 災害時に不安を感じることを聞いたところ、(複数回答)

さいがいじ 災害時に不安を感じることを聞いたところ、しんたいしょうがいしやおよ 身体障害者及び知的障害者では「適切に行動(避難や広域避難場所への移動等)できるか」と答えた割合がそれぞれ 45.5%、50.3%、精神障害者及び難病患者では「避難所等に、必要な設備、食料、医薬品等があるか」と答えた割合がそれぞれ 50.7%、54.1%となっている。(図VI-11-1 本文330p)

図VI-11-1 さいがいじ 災害時に不安を感じることを聞いたところ、(複数回答)



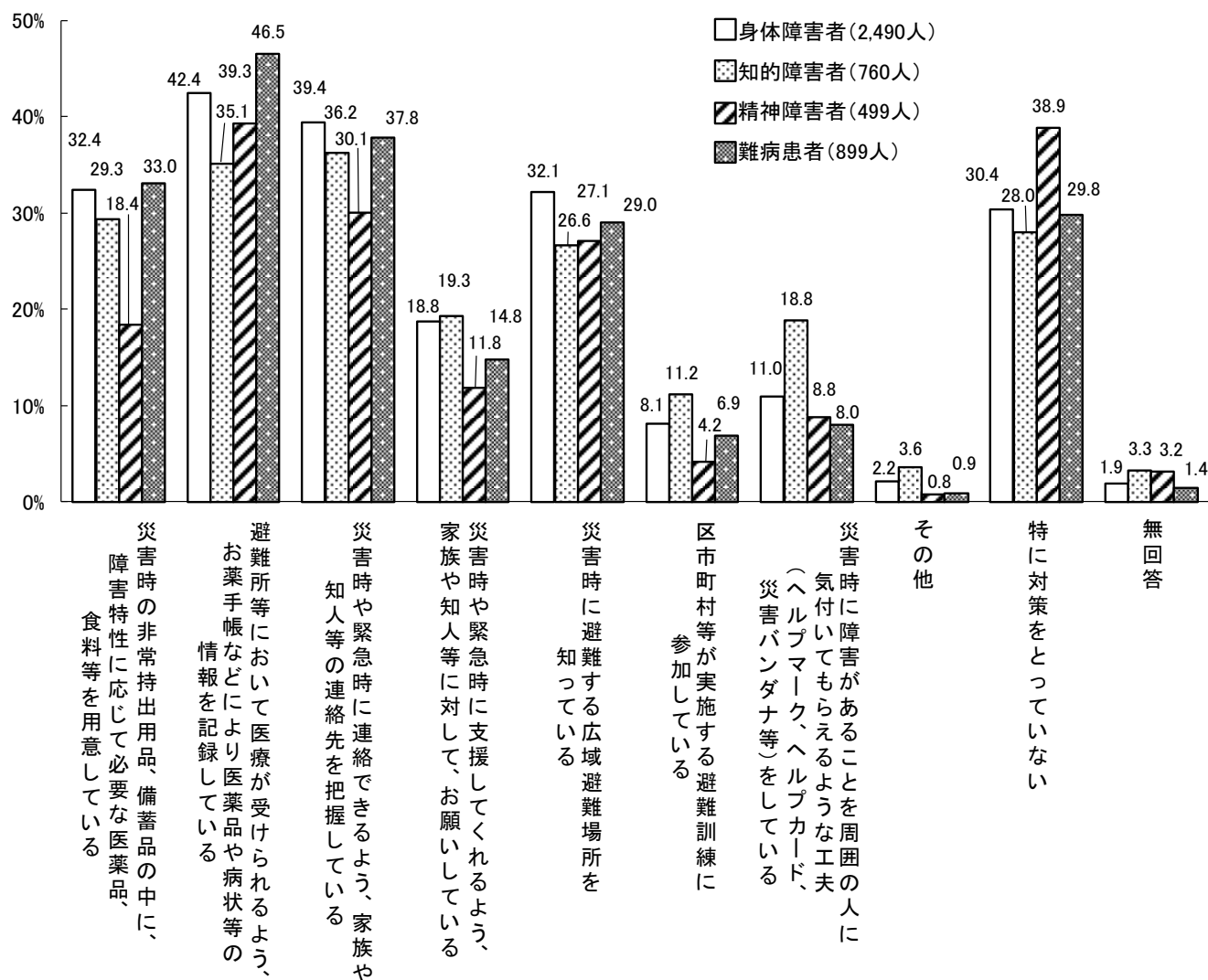
(2) 災害に備えて、難病や障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕

災害に備えて、難病や障害特性に応じた特別な対策をとっているかを聞いたところ、身体障害者、精神障害者及び難病患者では「避難所等において医療が受けられるよう、お薬手帳などにより医薬品や病状等の情報を記録している」と答えた割合がそれぞれ 42.4%、39.3%、46.5%、知的障害者では「災害時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人等の連絡先を把握している」と答えた割合が 36.2%となっている。

また、「特に対策をとっていない」と回答した人は、精神障害者では 38.9%となっている。

(図VI-11-2 本文331p)

図VI-11-2 災害に備えて、難病や障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕



○ 身体障害者2,490人(回答者)の状況

※報告書「第2章 身体障害者の状況 (21p～100p)」からの主な結果の抜粋

1 就労の状況

(1) 収入を伴う仕事の有無(調査基準日現在)－障害名(複数回答)、年齢階級別

「仕事をしている」人は65歳未満では44.7%

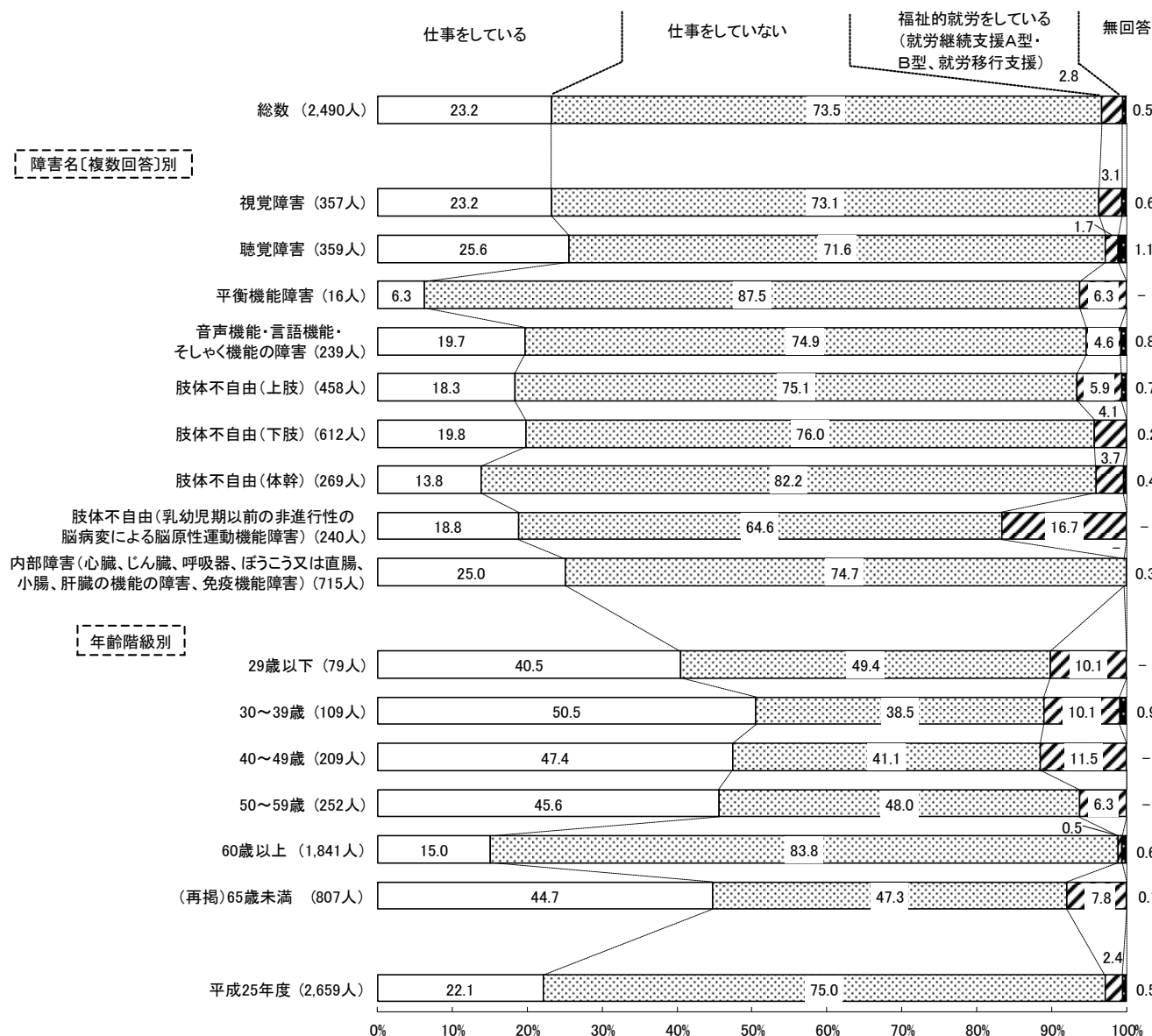
収入を伴う仕事をしているか聞いたところ、「仕事をしている」の割合が23.2%、「仕事をしていない」が73.5%、「福祉的就労をしている」が2.8%となっている。

障害名別にみると、「仕事をしている」の割合は、聴覚障害では25.6%、「福祉的就労をしている」の割合は、肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)では16.7%となっている。

年齢階級別にみると、「仕事をしている」の割合は、65歳未満では44.7%となっている。

(図Ⅱ-5-1 本文47p)

図Ⅱ-5-1 収入を伴う仕事の有無(調査基準日現在)－障害名〔複数回答〕、年齢階級別



(2) 仕事の種類〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

※調査基準日現在、「仕事をしている」と回答した578人が対象

正規の職員・従業員の割合が33.7%

仕事の種類を聞いたところ、「正規の職員・従業員」の割合が33.7%、「非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））」が33.0%、「自営業」が17.5%となっている。

障害名別にみると、「正規の職員・従業員」の割合は、聴覚障害及び肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では4割を超えている（44.6%、44.4%）。

年齢別にみると、「正規の職員・従業員」の割合は、29歳以下及び30代では6割を超えている（62.5%、65.5%）。（表Ⅱ-5-1 本文48p）

表Ⅱ-5-1 仕事の種類〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総数	正規の職員・従業員	会社等の役員	派遣（パート・アルバイトを含む）職員・従業員	自営業	家業の手伝い	内職	その他	無回答
総数		100.0 (578)	33.7	9.9	33.0	17.5	1.9	1.2	1.9	2.4
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (83)	36.1	10.8	30.1	19.3	—	—	6.0	—
	聴覚障害	100.0 (92)	44.6	4.3	35.9	12.0	1.1	—	—	3.3
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (47)	34.0	10.6	29.8	17.0	4.3	—	—	6.4
	肢体不自由（上肢）	100.0 (84)	36.9	10.7	35.7	10.7	—	2.4	1.2	2.4
	肢体不自由（下肢）	100.0 (121)	27.3	5.8	40.5	14.0	4.1	4.1	2.5	2.5
	肢体不自由（体幹）	100.0 (37)	37.8	21.6	29.7	8.1	—	—	—	2.7
	肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）	100.0 (45)	44.4	6.7	37.8	2.2	—	—	4.4	4.4
年齢階級別	内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害）	100.0 (179)	31.8	11.7	27.9	25.1	2.2	1.1	1.7	1.7
	29歳以下	100.0 (32)	62.5	3.1	28.1	—	—	3.1	—	3.1
	30～39歳	100.0 (55)	65.5	1.8	29.1	1.8	—	—	—	1.8
	40～49歳	100.0 (99)	48.5	4.0	31.3	7.1	—	1.0	3.0	5.1
	50～59歳	100.0 (115)	49.6	7.0	33.0	6.1	—	0.9	0.9	2.6
	60歳以上	100.0 (277)	12.3	15.5	35.0	31.0	4.0	1.4	2.5	1.4
	（再掲）65歳以上	100.0 (217)	8.8	17.1	33.2	34.6	3.2	1.8	2.8	1.8
平成25年度		100.0 (588)	32.7	9.2	30.1	22.4	3.1	1.7	1.9	0.5

注）身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別のうち、平衡機能障害は、母数が少数であるため、省略した。

(3) 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である440人が対象

仕事をしていく上で困ることは、総数では「通勤時の混雑」の割合が13.9%。
また、障害の種類によって困ることが異なる

仕事をしていく上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」の割合が55.5%、「困ることは特にない」が41.4%となっている。困ることの内容は、「通勤時の混雑」の割合が13.9%となっている。

障害名別にみると、視覚障害、肢体不自由（下肢）及び肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では「通勤時の混雑」の割合がそれぞれ23.8%、15.7%、22.5%、聴覚障害では「相手の言っていることが分からない」が53.2%、音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害では「相手に対して、言いたい内容が伝わらない」が41.2%、肢体不自由（上肢）及び肢体不自由（体幹）では「人間関係（職場内でのいじめなど）」がそれぞれ15.7%、21.2%、内部障害では「定期的な通院や健康管理との両立」が16.5%となっている。

仕事の種類別にみると、「困ることがある」の割合は、正規の職員・従業員では63.6%となっている。（表Ⅱ-5-3 本文55p）

表Ⅱ-5-3 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

		総数	困ることがある	仕事の内容	（職場内での いじめなど）	人間関係 伝わらない 内容が	相手に対して、 言いたい内容が	分らない 言っていること	相手の言っていること が	職場の（物理的 な） バリアフリー化が 不十分	勤務時間・日数	通勤距離・時間	通勤時の混雑	定期的な通院や立 健康管理との両立	急な体調の変化 への配慮がない	その他	特 に 困 る こ と は	無 回 答
総数		100.0 (440)	55.5	10.9	9.8	10.0	10.7	7.0	4.8	8.0	13.9	10.0	3.6	11.4	41.4	3.2		
性別	男	100.0 (301)	53.2	9.0	7.3	9.6	10.3	7.0	4.7	8.3	15.6	10.3	2.7	11.3	43.9	3.0		
	女	100.0 (139)	60.4	15.1	15.1	10.8	11.5	7.2	5.0	7.2	10.1	9.4	5.8	11.5	36.0	3.6		
身体障害者手帳の障害名 〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (63)	65.1	15.9	7.9	3.2	1.6	7.9	3.2	7.9	23.8	7.9	1.6	27.0	31.7	3.2		
	聴覚障害	100.0 (77)	75.3	10.4	20.8	20.8	53.2	7.8	1.3	3.9	10.4	5.2	1.3	11.7	18.2	6.5		
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (34)	55.9	14.7	5.9	41.2	5.9	2.9	2.9	2.9	5.9	11.8	5.9	8.8	41.2	2.9		
	肢体不自由（上肢）	100.0 (70)	54.3	14.3	15.7	10.0	8.6	14.3	2.9	5.7	14.3	4.3	2.9	10.0	42.9	2.9		
	肢体不自由（下肢）	100.0 (89)	57.3	14.6	11.2	3.4	2.2	11.2	2.2	9.0	15.7	12.4	1.1	14.6	41.6	1.1		
	肢体不自由（体幹）	100.0 (33)	51.5	6.1	21.2	12.1	－	18.2	－	12.1	18.2	9.1	6.1	6.1	45.5	3.0		
	肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）	100.0 (40)	57.5	12.5	7.5	20.0	15.0	7.5	－	10.0	22.5	5.0	5.0	5.0	42.5	－		
	内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害）	100.0 (127)	42.5	5.5	3.9	2.4	0.8	2.4	11.8	10.2	11.0	16.5	5.5	4.7	52.8	4.7		
	正規の職員・従業員	100.0 (195)	63.6	13.3	11.3	11.3	15.4	7.7	5.6	10.3	17.4	14.4	2.6	13.3	33.8	2.6		
会社等の役員	100.0 (57)	45.6	7.0	1.8	12.3	5.3	3.5	1.8	7.0	10.5	8.8	3.5	14.0	54.4	－			
非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））	100.0 (191)	49.7	9.4	11.0	7.9	7.9	7.3	4.7	5.8	11.0	6.3	4.7	8.4	45.5	4.7			

注）身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別のうち、平衡機能障害は、母数が少数であるため、省略した。

2 経済基盤

(1) 収入の種類〔3つまでの複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

収入の種類は「年金・恩給」の割合が最も高く78.0%

平成29年中の収入の種類を聞いたところ、「年金・恩給」の割合が78.0%で最も高く、また、「賃金・給料」が19.6%、「手当」が15.9%となっている。

年齢階級別にみると、30代から50代では「賃金・給料」の割合がいずれも4割を超えている（30代52.3%、40代44.0%、50代44.8%）。（表Ⅱ-6-1 本文62p）

表Ⅱ-6-1 収入の種類〔3つまでの複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総数	賃金・給料	事業所得	内職収入	家賃・地代	利子・配当	仕送り・小遣い	養育費・慰謝料	年金・恩給	生活保護費	手当	雇用保険	保険金・補償金	作業所等の工賃	その他の収入	収入はなかった	無回答
総数		100.0 (2,490)	19.6	3.2	0.4	5.2	2.2	2.0	0.1	78.0	7.8	15.9	0.4	1.0	2.0	2.2	2.5	1.4
身体障害者手帳の障害名	視覚障害	100.0 (357)	21.0	4.2	－	6.2	1.1	0.8	－	72.3	10.9	14.8	0.3	0.6	1.7	1.1	4.5	1.1
	聴覚障害	100.0 (359)	21.7	1.9	0.6	4.2	2.5	3.1	－	80.5	5.8	11.7	0.3	1.4	0.8	2.5	2.2	1.4
	平衡機能障害	100.0 (16)	6.3	－	－	－	6.3	－	－	75.0	－	12.5	－	18.8	6.3	6.3	6.3	12.5
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	17.2	1.3	0.8	8.4	2.5	0.4	－	76.6	8.8	11.3	1.7	2.5	3.8	3.3	3.3	1.7
	肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	16.8	2.2	0.4	2.8	2.0	2.8	0.2	77.9	9.6	23.4	0.7	0.7	5.0	2.6	3.1	1.5
	肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	16.7	2.5	0.7	3.8	2.3	3.3	0.2	81.4	7.2	16.2	0.3	0.5	2.8	2.3	1.5	1.6
	肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	13.0	1.5	－	2.6	1.5	2.6	0.4	81.8	8.2	32.0	－	1.5	1.9	1.5	2.6	1.5
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	17.5	0.8	－	0.4	1.3	1.3	－	79.6	5.8	47.5	0.8	1.3	13.8	2.5	2.9	2.1
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	20.3	4.5	0.4	6.4	2.4	1.3	－	79.0	8.5	11.7	0.3	0.6	0.1	2.8	1.7	0.8
	29歳以下	100.0 (79)	36.7	－	1.3	－	1.3	7.6	－	46.8	1.3	34.2	－	－	10.1	3.8	13.9	1.3
年齢階級別	30～39歳	100.0 (109)	52.3	－	0.9	－	2.8	1.8	－	62.4	1.8	47.7	0.9	－	8.3	0.9	－	－
	40～49歳	100.0 (209)	44.0	2.4	0.5	－	1.9	2.9	－	53.1	8.6	36.8	1.0	1.9	7.7	1.0	2.4	1.9
	50～59歳	100.0 (252)	44.8	2.8	－	4.4	1.2	－	－	44.8	15.1	27.0	1.2	2.0	4.8	1.2	6.0	2.8
	60～69歳	100.0 (394)	26.9	5.6	0.5	4.6	4.1	1.3	0.3	75.6	11.9	18.0	1.0	1.5	1.3	3.6	2.3	2.5
	70～79歳	100.0 (736)	10.1	3.9	0.4	5.7	1.4	1.5	－	89.8	7.7	9.6	－	0.5	－	3.1	1.6	0.5
	80歳以上	100.0 (711)	2.5	2.4	0.4	8.3	2.4	2.7	0.1	91.8	4.5	4.2	0.1	0.7	－	1.4	1.4	1.3
	(再掲) 65歳以上	100.0 (1,683)	8.6	3.4	0.5	6.7	2.2	1.9	0.1	90.0	7.2	7.9	0.1	0.7	0.1	2.5	1.5	1.1
平成25年度		100.0 (2,659)	17.9	3.0	0.6	5.9	1.8	1.4	－	77.3	7.4	20.8	0.4	0.6	1.9	1.9	3.1	1.1

(2) 年間収入額（生活保護費を除く）－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

ねんしゅう ねんちゅう せいかつ ほ ご ひ のぞ しょうがいめい みくすうかいとう ねんれいかいきゅうべつ
 年収は「50～100万円未満」の割合が18.8%

平成29年中の収入額を聞いたところ、「50～100万円未満」の割合が18.8%、「100～150万円未満」が15.5%となっている。（表Ⅱ-6-2 本文66p）

表Ⅱ-6-2 年間収入額（生活保護費を除く）－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総 数	収 入 な し	5 0 万 円 未 満	5 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	2 0 0 万 円 未 満	2 0 0 万 円 未 満	3 0 0 万 円 未 満	4 0 0 万 円 未 満	5 0 0 万 円 未 満	6 0 0 万 円 未 満	7 0 0 万 円 未 満	無 回 答
総数		100.0 (2,490)	5.8	9.5	18.8	15.5	11.0	9.4	6.5	6.5	3.4	2.2	1.3	3.4	6.6
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (357)	9.5	11.2	18.5	17.9	9.5	7.3	7.3	2.0	3.1	2.8	2.0	4.2	4.8
	聴覚障害	100.0 (359)	4.2	11.1	15.9	12.8	11.4	8.1	9.2	7.8	5.0	3.1	1.4	1.9	8.1
	平衡機能障害	100.0 (16)	6.3	—	12.5	31.3	—	—	12.5	—	—	—	12.5	—	25.0
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	7.5	6.7	18.4	13.0	13.0	10.5	8.4	6.7	4.6	2.1	0.4	2.5	6.3
	肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	5.9	10.5	17.5	19.7	10.5	9.2	3.7	5.7	2.6	1.1	1.1	2.4	10.3
	肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	4.7	9.3	21.9	18.3	11.6	8.8	4.6	5.9	2.6	1.3	0.8	2.1	8.0
	肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	5.2	10.0	22.7	16.7	12.6	10.0	1.9	5.2	2.2	1.1	0.7	3.0	8.6
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	5.0	8.8	17.1	26.7	13.3	9.6	2.9	2.9	1.7	0.8	0.8	0.4	10.0
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	5.0	9.4	17.6	12.2	10.6	12.9	6.9	8.4	3.1	2.5	1.3	5.6	4.6
年齢階級別	29歳以下	100.0 (79)	15.2	19.0	12.7	6.3	16.5	10.1	3.8	3.8	1.3	1.3	3.8	—	6.3
	30～39歳	100.0 (109)	0.9	4.6	14.7	17.4	11.9	11.0	4.6	8.3	9.2	6.4	3.7	1.8	5.5
	40～49歳	100.0 (209)	5.7	13.9	11.5	17.2	10.0	7.7	5.3	7.7	2.9	5.3	1.4	4.3	7.2
	50～59歳	100.0 (252)	13.1	8.7	10.7	15.9	6.7	6.0	4.4	6.0	7.1	4.0	4.4	7.5	5.6
	60～69歳	100.0 (394)	7.4	8.9	17.3	19.0	8.9	8.1	5.6	6.9	3.3	2.0	0.5	4.8	7.4
	70～79歳	100.0 (736)	3.8	9.5	24.3	14.9	11.3	11.7	6.4	5.4	2.0	1.8	0.4	1.9	6.5
	80歳以上	100.0 (711)	4.1	8.4	20.3	14.3	13.1	9.3	8.7	7.5	3.1	0.7	0.8	3.0	6.8
	(再掲) 65歳以上	100.0 (1,683)	4.1	8.9	22.0	15.2	11.9	10.2	7.2	6.7	2.7	1.2	0.5	2.8	6.6
平成25年度		100.0 (2,659)	7.1	9.6	19.2	15.3	9.8	10.6	6.9	6.5	3.9	2.2	1.0	3.0	4.9

3 社会参加等

(1) 現在利用している施設に満足しているかー性別、年齢階級、障害名〔複数回答〕別

※平日の日中主に職場(福祉的就労の施設)又は通所施設(生活介護、デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く)で過ごしている171人が対象

現在利用している施設に満足している(「とても満足している」+「満足している」+「だいたい満足している」)割合は71.9%。そのうち、「とても満足している」割合は21.6%

現在利用している施設に満足しているか聞いたところ、「とても満足している」と答えた割合は21.6%で、「満足している」(22.8%)及び「だいたい満足している」(27.5%)と合わせると、71.9%となっている。

一方で、不満である(「やや不満である」(3.5%)、「不満である」(1.8%)、「とても不満である」(1.2%))の合計と答えた割合は6.4%となっている。(表Ⅱ-7-2 本文68p)

表Ⅱ-7-2 現在利用している施設に満足しているかー障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総数	満足している	満足している	満足したい	不満である	不満である	不満である	不満である	無回答
総数		100.0 (171)	21.6	22.8	27.5	16.4	3.5	1.8	1.2	5.3
			71.9				6.4			
性別	男	100.0 (96)	19.8	24.0	27.1	16.7	5.2	2.1	1.0	4.2
	女	100.0 (75)	24.0	21.3	28.0	16.0	1.3	1.3	1.3	6.7
年齢階級別	29歳以下	100.0 (23)	21.7	21.7	34.8	17.4	4.3	-	-	-
	30～39歳	100.0 (30)	20.0	30.0	13.3	20.0	6.7	3.3	-	6.7
	40～49歳	100.0 (35)	25.7	28.6	14.3	20.0	2.9	-	2.9	5.7
	50～59歳	100.0 (20)	25.0	5.0	45.0	15.0	-	10.0	-	-
	60～69歳	100.0 (13)	15.4	15.4	38.5	23.1	-	-	-	7.7
	70～79歳	100.0 (16)	12.5	31.3	37.5	-	-	-	6.3	12.5
	80歳以上	100.0 (34)	23.5	20.6	29.4	14.7	5.9	-	-	5.9
	(再掲)65歳以上	100.0 (56)	17.9	25.0	33.9	10.7	3.6	-	1.8	7.1
身体障害者手帳の障害名	視覚障害	100.0 (18)	33.3	22.2	27.8	11.1	-	5.6	-	-
	聴覚障害	100.0 (13)	15.4	23.1	30.8	7.7	7.7	-	-	15.4
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (16)	12.5	31.3	25.0	18.8	-	6.3	-	6.3
	肢体不自由(上肢)	100.0 (60)	18.3	28.3	28.3	13.3	5.0	1.7	1.7	3.3
	肢体不自由(下肢)	100.0 (56)	17.9	23.2	26.8	19.6	3.6	1.8	1.8	5.4
	肢体不自由(体幹)	100.0 (51)	27.5	23.5	31.4	13.7	-	-	-	3.9
〔複数回答〕別	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (75)	25.3	21.3	17.3	22.7	5.3	1.3	1.3	5.3
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (18)	22.2	22.2	33.3	5.6	5.6	-	5.6	5.6

注) 身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別のうち、平衡機能障害は、母数が少数のため、省略した。

(2) 社会参加をする上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

社会参加の妨げになっていることは、「電車やバスなどを使っての移動が不便」の割合が20.5%、「道路や駅などの利用が不便」が19.0%

社会参加をする上で妨げになっていることがあるか聞いたところ、「電車やバスなどを使っての移動が不便」の割合が20.5%、「道路や駅などの利用が不便」が19.0%となっている。一方で、「特になし」と答えた割合は43.4%となっている。

障害名別にみると、視覚障害では「道路や駅などの利用が不便」の割合が、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では「電車やバスなどを使っての移動が不便」の割合がそれぞれ3割を超えている（31.1%、34.2%）。（表Ⅱ-7-4 本文70p）

表Ⅱ-7-4 社会参加する上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

		総数	道路や駅などの利用が不便	電車やバスなどを使っての移動が不便	整備された建物の設備が利用できない	利用する建物の設備が利用できない	点字版が古い、破損等により利用が不便	介助者がいない	情報がない	参加連絡などの問合せができないため、連絡方法の整備がされていないため、FAX番号やメールアドレスなど、まわりの人の障害者に対する理解不足	拒否される	障害を理由に施設等の利用を拒否される	適切な指導者がいない	一緒に行く仲間がいない	通訳、文字表示、点字など配慮がされていない	障害者の参加を想定していないため、配慮がされない※	ヘルプマークを持っているが、ヘルプマークがされない※	その他	特になし	無回答
総数		100.0 (2,490)	19.0	20.5	6.0	0.4	8.7	5.3	2.3	9.2	1.3	1.9	7.0	2.1	2.4	11.2	43.4	3.6		
身体障害者手帳の障害名（複数回答）別	視覚障害	100.0 (357)	31.1	27.2	6.4	2.5	13.4	4.2	2.2	10.9	2.0	3.4	5.3	4.2	3.1	12.0	31.4	3.9		
	聴覚障害	100.0 (359)	10.6	13.1	2.8	-	7.2	10.9	8.6	14.8	1.1	3.3	7.8	7.0	2.2	11.1	44.6	1.9		
	平衡機能障害	100.0 (16)	6.3	25.0	-	-	25.0	12.5	-	18.8	6.3	6.3	6.3	-	-	6.3	43.8	6.3		
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (239)	9.6	14.2	3.3	-	5.0	5.4	4.2	14.2	0.8	2.5	10.0	2.5	2.9	7.9	51.9	3.8		
	肢体不自由(上肢)	100.0 (458)	26.4	28.4	8.7	0.2	12.9	4.6	0.4	11.4	2.0	2.4	8.5	0.7	2.6	15.1	31.0	5.0		
	肢体不自由(下肢)	100.0 (612)	27.5	28.4	9.6	0.2	10.6	3.3	0.7	8.8	1.5	1.5	7.7	0.5	3.1	13.4	34.2	4.1		
	肢体不自由(体幹)	100.0 (269)	26.4	28.6	12.3	-	19.0	5.2	-	11.9	3.0	2.2	5.2	0.7	1.9	12.3	25.7	7.4		
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (240)	29.2	34.2	17.9	-	17.5	5.0	0.8	15.0	3.3	3.8	6.7	1.7	2.5	10.8	24.6	4.2		
	内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害)	100.0 (715)	11.2	14.1	3.1	-	4.9	4.2	0.8	5.3	0.3	0.8	6.0	0.4	1.8	10.8	55.7	3.4		
平日の日中主に過ごしたところ別	自分の家	100.0 (1,766)	19.8	21.3	5.1	0.3	8.0	4.8	2.2	7.4	0.8	1.6	7.8	1.5	1.9	11.8	44.9	2.7		
	職場(福祉的就労の施設を除く)	100.0 (354)	14.4	13.8	7.9	0.6	2.0	8.2	3.7	15.8	3.1	2.0	4.0	4.0	4.2	8.5	48.0	1.7		
	職場(福祉的就労の施設)	100.0 (38)	15.8	21.1	21.1	2.6	10.5	7.9	-	23.7	5.3	13.2	7.9	7.9	10.5	2.6	23.7	5.3		
	学校	100.0 (18)	33.3	22.2	16.7	-	-	11.1	11.1	16.7	5.6	5.6	-	16.7	-	-	38.9	-		
	通所施設(生活介護、デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く)	100.0 (133)	26.3	28.6	10.5	0.8	26.3	6.0	0.8	9.8	3.0	2.3	7.5	1.5	2.3	10.5	24.8	11.3		
	入所施設	100.0 (121)	10.7	17.4	2.5	-	20.7	2.5	-	8.3	-	0.8	4.1	1.7	1.7	15.7	40.5	9.1		
	その他	100.0 (27)	18.5	14.8	3.7	3.7	3.7	-	7.4	14.8	-	3.7	11.1	3.7	11.1	18.5	37.0	-		
平成25年度		100.0 (2,659)	17.4	19.0	5.8	0.4	8.8	4.7	2.1	8.3	0.9	2.1	7.0	2.7	...	11.1	46.6	3.2		

注) ※は、平成25年度調査では選択肢を設けていなかった。

4 情報の入手やコミュニケーションの手段

(1) 情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ること（視覚障害者）

〔2つまでの複数回答〕

※視覚障害者357人が対象

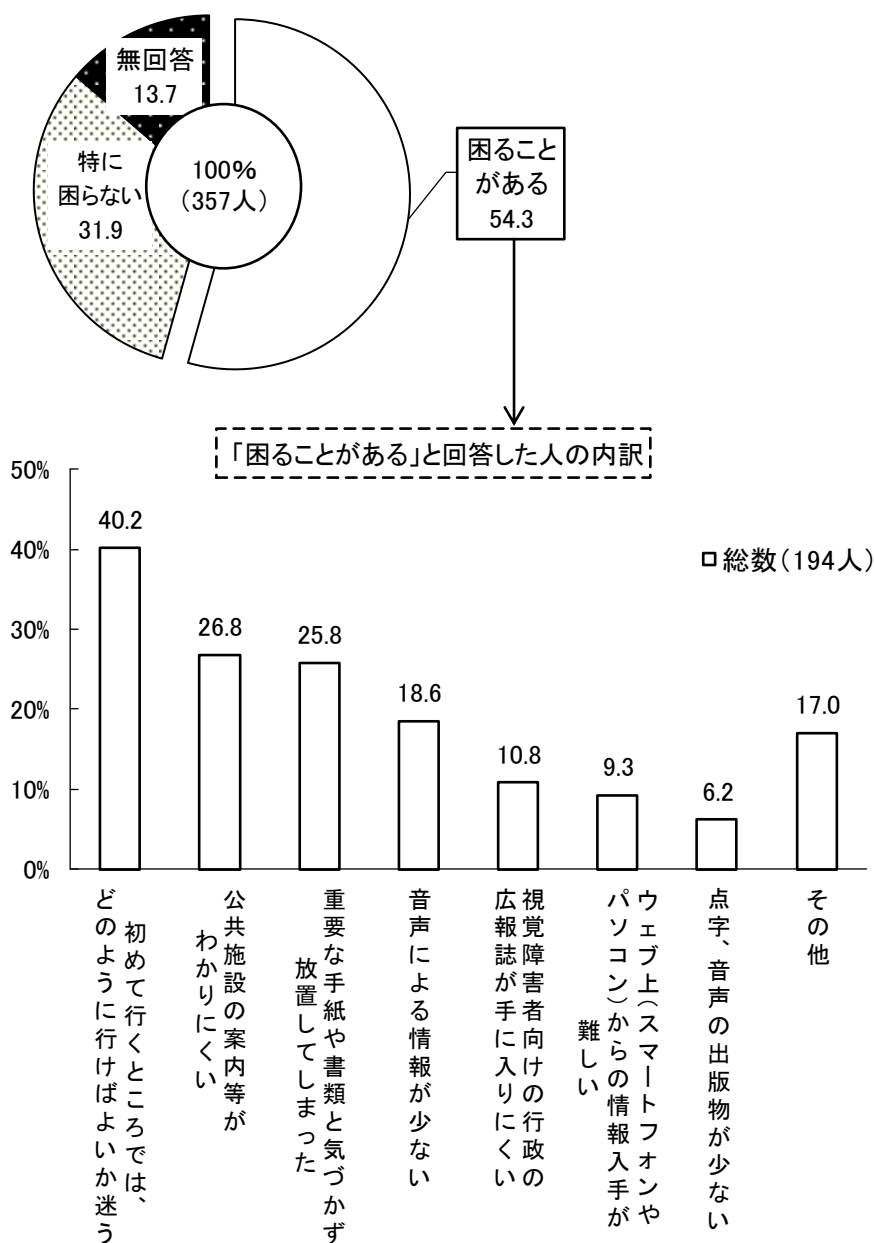
視覚障害者が情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ることは、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」の割合が40.2%

情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」と答えた割合が54.3%となっている。

困ることの内容では、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」の割合が40.2%となっている。また、「その他」の割合が17.0%で、その主な内容では「文字が読めない」、「書類の文字が小さい」等の意見が見られた。（図Ⅱ-8-2 本文73p）

図Ⅱ-8-2 情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ること（視覚障害者）

〔2つまでの複数回答〕



(2) 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること（聴覚障害者）

〔2つまでの複数回答〕

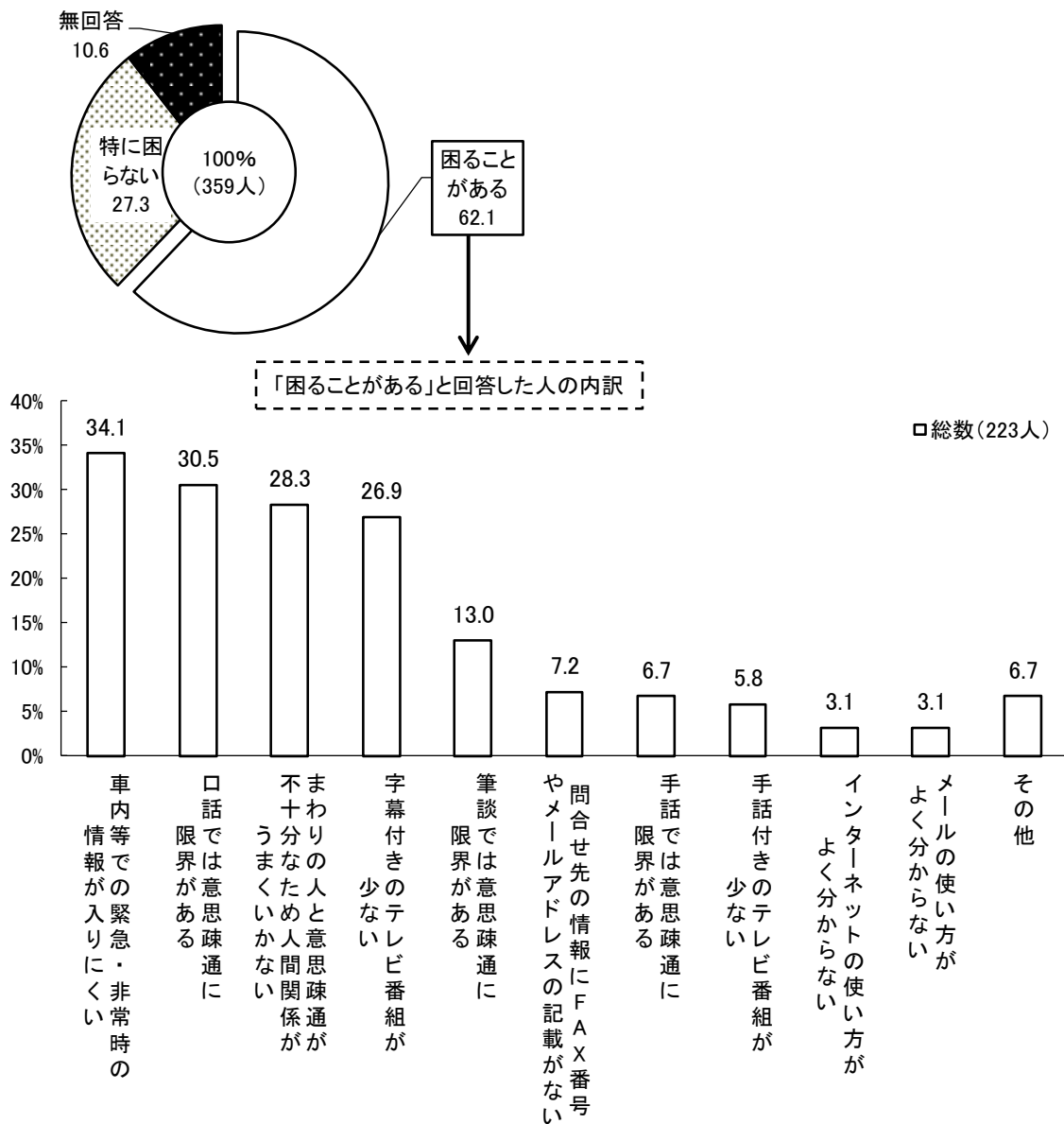
※聴覚障害者359人が対象

聴覚障害者が情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることは、「車内等での緊急・非常時の情報が入りにくい」及び「口話では意思疎通に限界がある」の割合がいずれも3割を超えている

情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」と答えた割合が62.1%となっている。

困ることの内容では、「車内等での緊急・非常時の情報が入りにくい」の割合が34.1%、「口話では意思疎通に限界がある」が30.5%となっている。また、「その他」の割合が6.7%で、その主な内容では「電話の音が聞こえづらい」、「補聴器では聞き取れる音に限界がある」等の意見が見られた。（図Ⅱ-8-4 本文75p）

図Ⅱ-8-4 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること（聴覚障害者）
〔2つまでの複数回答〕



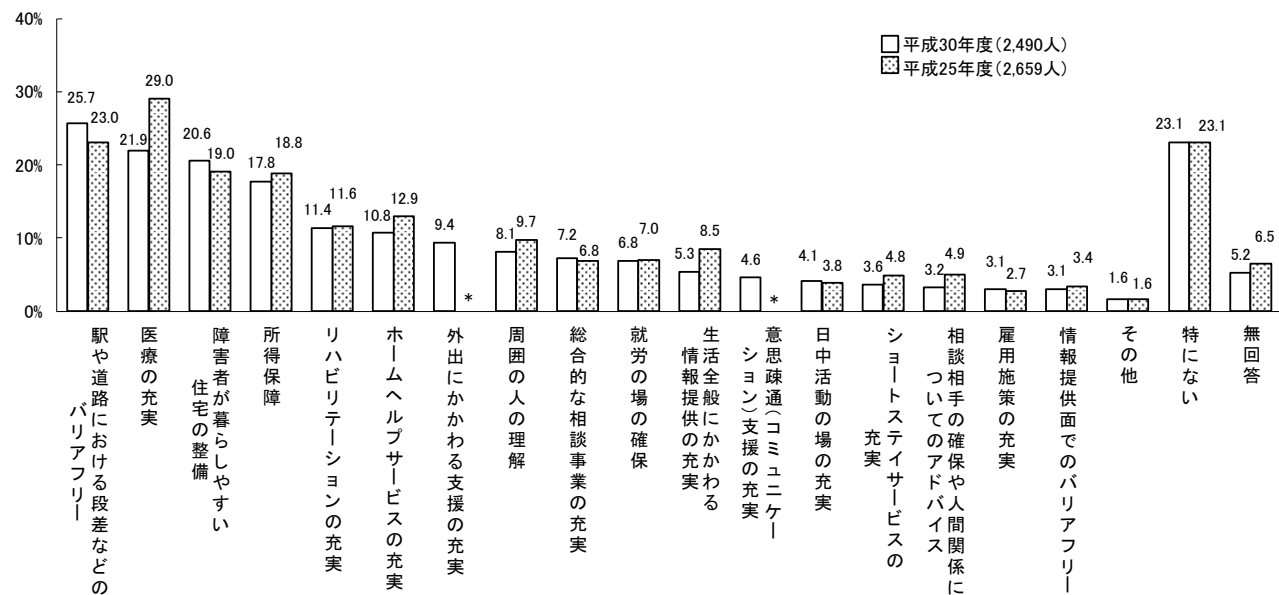
5 その他の福祉サービス等

地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

地域生活をする上で「駅や道路における段差などのバリアフリー」が必要と答えた割合は、平成25年度調査よりも2.7ポイント増加し25.7%

地域生活をしたり、しようとする上で、必要な福祉サービス等は何か聞いたところ、「駅や道路における段差などのバリアフリー」の割合が25.7%、「医療の充実」が21.9%、「障害者が暮らしやすい住宅の整備」が20.6%となっている。
平成25年度調査と比べて、「駅や道路における段差などのバリアフリー」の割合は2.7ポイント増加し、25.7%となっている。一方で、平成25年度調査と比べて「医療の充実」の割合は7.1ポイント減少し、21.9%となっている。（図Ⅱ-11-1 本文94p）

図Ⅱ-11-1 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕



注) *は、平成25年度調査では選択肢を設けていなかった。

知的障害者760人（回答者）の状況

※報告書の「第3章 知的障害者の状況（101p～163p）」からの主な結果の抜粋

※回答者別欄の「本人が回答」については、「本人が回答」及び「付き添いがいたが本人が自分の意見を回答」の合計、「本人以外が回答」については、「ほとんど付き添いの家族などの親族が回答」、「ほとんど付き添いの親族以外の人（施設職員等）が回答」及び「調査対象者本人がおらず、家族や支援者が回答」の合計である。

1 就労の状況

(1) 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－年齢階級、愛の手帳の程度別

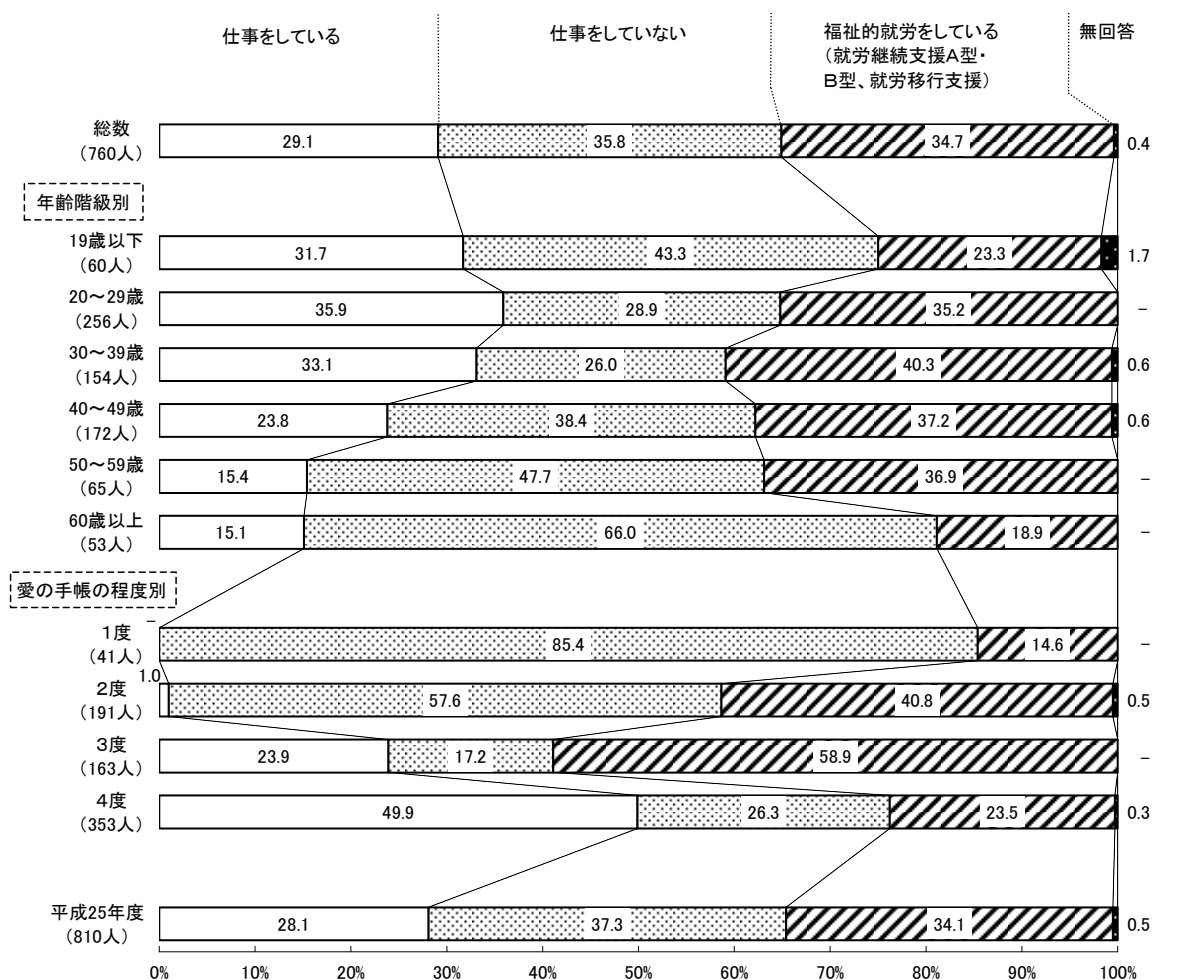
「福祉的就労をしている（就労継続支援A型・B型、就労移行支援）」割合が34.7%、「仕事をしている」割合が29.1%

収入を伴う仕事をしているか聞いたところ、「福祉的就労をしている（就労継続支援A型・B型、就労移行支援）」の割合が34.7%、「仕事をしている」が29.1%、「仕事をしていない」が35.8%となっている。

年齢階級別にみると、30代では「福祉的就労をしている」の割合が40.3%となっている。

愛の手帳の程度別にみると、4度では「仕事をしている」の割合が49.9%、3度では「福祉的就労をしている」が58.9%となっている。（図Ⅲ-5-1 本文119p）

図Ⅲ-5-1 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－年齢階級、愛の手帳の程度別



(2) 仕事の種類〔複数回答〕－年齢階級、愛の手帳の程度別

※調査基準日現在、「仕事をしている」と回答した 221人が対象

「非正規の職員・従業員」の割合が最も高く 71.0%、「正規の職員・従業員」の割合は 25.8%

仕事の種類を聞いたところ、「非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））」の割合が 71.0%で最も高く、また、「正規の職員・従業員」が 25.8%となっている。

年齢階級別にみると、40代では「正規の職員・従業員」の割合が 34.1%となっている。

また、「非正規の職員・従業員」の割合は、10代から 40代では6割を超えている（63.4～76.5%）。（表Ⅲ-5-1 本文120p）

表Ⅲ-5-1 仕事の種類〔複数回答〕－年齢階級、愛の手帳の程度別

		総数	正規の職員・従業員	会社等の役員	非正規の職員・従業員 （パート・アルバイト・日雇等 （契約職員、派遣職員を含む））	自営業	家業の手伝い	内職	その他	無回答
総数		100.0 (221)	25.8	—	71.0	—	0.9	—	0.9	1.8
年齢階級別	19歳以下	100.0 (19)	26.3	—	73.7	—	—	—	—	—
	20～29歳	100.0 (92)	21.7	—	73.9	—	—	—	2.2	2.2
	30～39歳	100.0 (51)	21.6	—	76.5	—	—	—	—	2.0
	40～49歳	100.0 (41)	34.1	—	63.4	—	2.4	—	—	—
	50～59歳	100.0 (10)	50.0	—	40.0	—	—	—	—	10.0
愛の手帳の度別	3度	100.0 (39)	20.5	—	71.8	—	2.6	—	2.6	2.6
	4度	100.0 (176)	26.7	—	71.0	—	0.6	—	0.6	1.7

注 1) 年齢階級別のうち、60歳以上は母数が少数のため、省略した。

2) 愛の手帳の程度別のうち、1度は該当者がいないため、2度は母数が少数のため、省略した。

(3) 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

—性別、年齢階級、愛の手帳の程度、回答者別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である214人が対象

仕事をしていく上で困ことは「相手に対して、言いたい内容が伝わらない」が24.3%

仕事をしていく上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」の割合が50.9%、「困ることは特にない」が45.3%となっている。

困ることの内容では、「相手に対して、言いたい内容が伝わらない」の割合が24.3%となっている。

年齢階級別にみると、40代では「相手に対して、言いたい内容が伝わらない」の割合が30.0%となっている。（表Ⅲ-5-4 本文125p）

表Ⅲ-5-4 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

—性別、年齢階級、愛の手帳の程度、回答者別

		総数	困ることがある	仕事の内容	人間関係（職場内でのいじめなど）	内容が相手に対して、言いたい	相手の言い分が伝わらない	職場の（物理的）な不十分	勤務時間・日数	通勤距離・時間	通勤時の混雑	定期的な通院や健康管理との両立	急な体調の変化への配慮がない	その他	困ることは特にない	無回答
総数		100.0 (214)	50.9	8.9	21.0	24.3	14.0	0.9	3.7	5.1	10.3	3.3	3.3	4.2	45.3	3.7
性別	男	100.0 (158)	51.9	9.5	20.3	25.9	13.3	1.3	4.4	4.4	8.2	2.5	3.2	3.8	46.2	1.9
	女	100.0 (56)	48.2	7.1	23.2	19.6	16.1	—	1.8	7.1	16.1	5.4	3.6	5.4	42.9	8.9
年齢階級別	19歳以下	100.0 (19)	47.4	5.3	21.1	26.3	10.5	—	15.8	10.5	10.5	—	—	—	52.6	—
	20～29歳	100.0 (88)	56.8	9.1	20.5	23.9	13.6	1.1	2.3	5.7	15.9	4.5	1.1	6.8	39.8	3.4
	30～39歳	100.0 (50)	48.0	12.0	26.0	24.0	16.0	—	4.0	2.0	4.0	4.0	8.0	2.0	50.0	2.0
	40～49歳	100.0 (40)	50.0	7.5	20.0	30.0	15.0	2.5	2.5	5.0	7.5	2.5	5.0	2.5	40.0	10.0
	50歳以上	100.0 (17)	35.3	5.9	11.8	11.8	11.8	—	—	5.9	5.9	—	—	5.9	64.7	—
の愛程の度手帳別	3度	100.0 (36)	38.9	5.6	11.1	25.0	22.2	2.8	2.8	5.6	2.8	—	2.8	2.8	52.8	8.3
	4度	100.0 (172)	53.5	9.3	22.7	23.3	12.8	0.6	4.1	4.7	12.2	4.1	3.5	4.7	43.6	2.9
回答者別	本人が回答	100.0 (143)	50.3	10.5	22.4	20.3	10.5	0.7	4.2	6.3	10.5	4.2	4.2	5.6	48.3	1.4
	本人以外が回答	100.0 (40)	52.5	5.0	17.5	27.5	12.5	2.5	2.5	5.0	10.0	—	2.5	2.5	45.0	2.5

注1) 愛の手帳の程度別のうち、1度は該当者がいないため、2度は母数が少数のため、省略した。

2) 回答者別のうち、回答者が不明なものは省略した。

2 経済基盤

(1) 収入の種類〔3つまでの複数回答〕－愛の手帳の程度別

収入の種類は「年金・恩給」の割合が最も高く63.0%。「賃金・給料」の割合は、平成25年度調査よりも7.8ポイント増加し36.7%

平成29年中の収入の種類を聞いたところ、「年金・恩給」の割合が63.0%で最も高く、また、「賃金・給料」が36.7%、「手当」が35.1%、「作業所等の工賃」が20.9%となっている。愛の手帳の程度別にみると、3度では「作業所等の工賃」が32.5%、4度では「賃金・給料」が55.5%となっている。

平成25年度調査と比べて、「賃金・給料」の割合は、7.8ポイント増加している。（表Ⅲ-6-1 本文132p）

表Ⅲ-6-1 収入の種類〔3つまでの複数回答〕－愛の手帳の程度別

	総数	賃金・給料	事業所得	内職収入	家賃・地代	利子・配当	仕送り・小遣い	養育費・慰謝料	年金・恩給	生活保護費	手当	雇用保険	保険金・補償金	作業所等の工賃	その他の収入	収入はなかった	無回答
総数	100.0 (760)	36.7	0.1	0.4	0.3	0.1	4.3	0.1	63.0	8.0	35.1	0.7	－	20.9	1.2	5.4	1.8
1度	100.0 (41)	9.8	－	－	－	－	－	－	75.6	2.4	63.4	－	－	7.3	2.4	2.4	－
2度	100.0 (191)	6.3	－	－	0.5	－	5.8	0.5	80.6	2.1	49.2	0.5	－	30.9	1.6	4.7	2.1
3度	100.0 (163)	39.3	－	0.6	0.6	－	4.9	－	73.6	3.7	34.4	－	－	32.5	1.2	5.5	0.6
4度	100.0 (353)	55.5	0.3	0.6	－	0.3	4.0	－	47.6	13.9	24.9	1.1	－	12.5	0.8	5.9	2.0
平成25年度	100.0 (810)	28.9	－	0.2	0.5	0.1	3.7	－	65.7	4.2	37.7	0.2	0.2	27.9	0.9	5.3	2.2

(2) 年間収入額（生活保護費を除く）－年齢階級、愛の手帳の程度別

年 収 は 「50～100万円未満」 の割合が 27.0%

平成29年中の収入額を聞いたところ、「50～100万円未満」の割合が27.0%、「100～150万円未満」が21.6%となっている。（表Ⅲ-6-2 本文135p）

表Ⅲ-6-2 年間収入額（生活保護費を除く）－年齢階級、愛の手帳の程度別

	総数	収入なし	50万円未満	50～100万円未満	100～150万円未満	150～200万円未満	200～250万円未満	250～300万円未満	300～350万円未満	350～400万円未満	400万円以上	無回答
総数	100.0 (760)	7.4	12.1	27.0	21.6	13.4	6.8	1.6	0.5	0.1	0.1	9.3
年齢階級別	19歳以下	100.0 (60)	41.7	30.0	11.7	6.7	3.3	—	—	—	—	6.7
	20～29歳	100.0 (256)	3.1	11.7	26.2	28.9	15.6	7.0	2.0	0.4	—	5.1
	30～39歳	100.0 (154)	2.6	8.4	27.3	19.5	20.1	11.7	3.2	—	—	7.1
	40～49歳	100.0 (172)	4.7	9.3	29.1	21.5	12.8	7.0	1.2	0.6	—	14.0
	50～59歳	100.0 (65)	6.2	13.8	33.8	13.8	6.2	3.1	—	1.5	1.5	18.5
	60歳以上	100.0 (53)	13.2	11.3	32.1	18.9	5.7	3.8	—	1.9	—	13.2
愛の手帳の程度別	1度	100.0 (41)	2.4	9.8	36.6	4.9	19.5	12.2	2.4	—	—	9.8
	2度	100.0 (191)	5.2	9.4	25.1	31.9	13.1	4.7	—	—	—	10.5
	3度	100.0 (163)	5.5	10.4	38.0	20.2	9.8	4.9	2.5	0.6	—	8.0
	4度	100.0 (353)	9.6	15.0	21.8	19.0	15.0	8.5	1.7	0.8	0.3	8.2
平成25年度	100.0 (810)	6.9	11.7	30.2	23.1	13.5	6.5	1.7	0.5	0.2	0.1	5.4

3 社会参加等

(1) 現在利用している施設に満足しているかー性別、年齢階級、愛の手帳の程度、回答者別
 ※平日の日中主に職場(福祉的就労の施設)又は通所施設(生活介護、デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く)で過ごしている323人が対象

現在利用している施設に満足している(「とても満足している」+「満足している」+「だいたい満足している」)割合は72.4%。そのうち、「とても満足している」割合は26.6%

現在利用している施設に満足しているか聞いたところ、「とても満足している」と答えた割合は26.6%で、「満足している」(29.7%)及び「だいたい満足している」(16.1%)と合わせると、72.4%の人が満足していると回答している。

一方で、不満である(「やや不満である」(4.0%)、「不満である」(1.5%)、「とても不満である」(0.9%)の合計)と答えた割合は6.5%となっている。

回答者別にみると、満足している(「とても満足している」、「満足している」、「だいたい満足している」の合計)と答えた割合は、本人以外が回答した場合では75.6%、本人が回答した場合では59.2%となっている。(表Ⅲ-7-1 本文137p)

表Ⅲ-7-1 現在利用している施設に満足しているかー性別、年齢階級、愛の手帳の程度、回答者別

		総数	とても満足	満足している	だいたい満足	ふつう	やや不満である	不満である	とても不満である	無回答
総数		100.0 (323)	26.6	29.7	16.1	17.3	4.0	1.5	0.9	3.7
			72.4				6.5			
性別	男	100.0 (198)	28.8	29.3	14.6	19.2	3.0	1.0	0.5	3.5
	女	100.0 (125)	23.2	30.4	18.4	14.4	5.6	2.4	1.6	4.0
年齢階級別	19歳以下	100.0 (21)	28.6	28.6	9.5	9.5	-	4.8	9.5	9.5
	20～29歳	100.0 (113)	28.3	29.2	20.4	16.8	2.7	1.8	-	0.9
	30～39歳	100.0 (74)	12.2	33.8	23.0	20.3	5.4	1.4	-	4.1
	40～49歳	100.0 (77)	35.1	22.1	11.7	18.2	6.5	-	-	6.5
	50～59歳	100.0 (26)	23.1	50.0	-	15.4	-	3.8	3.8	3.8
	60歳以上	100.0 (12)	50.0	16.7	8.3	16.7	8.3	-	-	-
愛の手帳の程度別	1度	100.0 (26)	11.5	42.3	23.1	7.7	11.5	3.8	-	-
	2度	100.0 (130)	29.2	29.2	20.0	16.2	0.8	1.5	-	3.1
	3度	100.0 (96)	24.0	30.2	13.5	18.8	6.3	1.0	-	6.3
	4度	100.0 (71)	31.0	25.4	9.9	21.1	4.2	1.4	4.2	2.8
回答者別	本人が回答	100.0 (76)	31.6	17.1	10.5	23.7	9.2	2.6	1.3	3.9
	本人以外が回答	100.0 (209)	23.9	34.4	17.2	15.3	2.9	1.4	1.0	3.8
			75.6							

注) 回答者別については、回答者が不明のものは省略した。

(2) 社会参加をする上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

－愛の手帳の程度、平日の日中主に過ごしたところ別

社会参加をする上で妨げになっていることは「まわりの人の障害者に対する理解不足」の割合が、平成25年度調査よりも3.1ポイント増加し20.3%

社会参加をする上で妨げになっていることがあるか聞いたところ、「まわりの人の障害者に対する理解不足」の割合が20.3%、「一緒に行く仲間がいない」が15.4%、「電車やバスなどを使つての移動が不便」が14.9%となっている。

愛の手帳の程度別にみると、1度では「電車やバスなどを使つての移動が不便」の割合が39.0%となっている。

平成25年度調査と比べて、「まわりの人の障害者に対する理解不足」の割合は3.1ポイント増加している。（表Ⅲ-7-3 本文139p）

表Ⅲ-7-3 社会参加する上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

－愛の手帳の程度、平日の日中主に過ごしたところ別

		総数	分道 から 駅な い等 の表 示が	使電 つて のバ スな どを 便	介助 者が いな い	情 報が ない	対ま する 理の 解人 の不 足障 害者 に	利障 用を 拒理 否由 に施 設等 の	適 切な 指 導者 が いな い	一 緒に 行く 仲 間が いな い	配 慮が プ マ ー ク を 持 っ て い る が、 ※	そ の 他	特 に な い	無 回 答
総数		100.0 (760)	13.2	14.9	13.9	5.9	20.3	1.8	8.0	15.4	4.1	9.9	38.2	3.8
愛の手帳の程度別	1度	100.0 (41)	4.9	39.0	22.0	2.4	26.8	4.9	4.9	2.4	4.9	19.5	26.8	2.4
	2度	100.0 (191)	18.3	14.7	26.2	5.8	28.3	1.6	8.9	7.9	4.2	14.7	22.5	5.2
	3度	100.0 (163)	18.4	20.2	16.0	6.1	20.9	1.2	9.8	23.9	3.1	8.6	29.4	4.9
	4度	100.0 (353)	9.3	9.9	5.7	5.9	15.0	2.0	6.8	17.3	4.5	7.1	51.3	2.5
主に過ごしたところ別	自分の家	100.0 (164)	9.8	11.6	8.5	6.1	22.0	1.2	7.3	20.1	6.1	14.0	36.6	3.7
	職場(福祉的就労の施設を除く)	100.0 (179)	9.5	8.4	2.8	5.0	17.3	0.6	5.6	14.0	2.2	4.5	59.2	0.6
	職場(福祉的就労の施設)	100.0 (195)	18.5	18.5	20.5	7.2	22.1	2.6	12.8	20.0	4.1	7.7	31.3	3.1
	学校	100.0 (20)	15.0	25.0	15.0	15.0	25.0	-	-	20.0	15.0	-	40.0	-
	通所施設(生活介護、デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設を除く)	100.0 (128)	15.6	25.0	26.6	3.9	21.9	3.1	6.3	8.6	3.1	15.6	17.2	6.3
	入所施設	100.0 (51)	13.7	9.8	13.7	7.8	19.6	2.0	5.9	2.0	3.9	13.7	43.1	5.9
平成25年度		100.0 (810)	11.9	14.1	16.5	8.9	17.2	1.1	8.3	16.9	...	9.3	38.5	4.6

注1) ※は、平成25年度調査では選択肢を設けていなかった。

2) 平日の日中主に過ごしたところ別のうち、「その他」は、母数が少数のため、省略した。

4 情報の入手やコミュニケーションの手段

情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること〔2つまでの複数回答〕
 年齢階級、愛の手帳の程度、回答者別

情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることは「まわりの人と意思疎通が不十分なため人間関係がうまくいかない」の割合が32.8%

情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」と答えた割合が63.3%となっている。

困ることの内容では、「まわりの人と意思疎通が不十分なため人間関係がうまくいかない」の割合が32.8%、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」が30.4%となっている。

回答者別にみると、「困ることがある」の割合は、本人以外が回答した場合は69.0%で、本人が回答した場合は55.2%となっている。（表Ⅲ-8-2 本文143p）

表Ⅲ-8-2 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること〔2つまでの複数回答〕
 年齢階級、愛の手帳の程度、回答者別

		総数	困ることがある	公共施設 の案内等が	迷う	初めての 行くところ では、	不十分 なため 人意思 疎通が	まわりの 人との 間意思 疎通が	イン ター ネット の	メール の 使用 が	その他	特に 困ら ない	無 回 答
総数		100.0 (760)	63.3	10.1	30.4	32.8	5.3	3.6	11.1	30.7	6.1		
年齢階級別	19歳以下	100.0 (60)	70.0	8.3	38.3	35.0	3.3	1.7	10.0	26.7	3.3		
	20～29歳	100.0 (256)	68.0	9.4	33.2	40.2	2.3	2.0	11.7	26.2	5.9		
	30～39歳	100.0 (154)	67.5	11.0	33.1	37.7	3.9	5.2	11.0	26.6	5.8		
	40～49歳	100.0 (172)	57.6	10.5	23.8	24.4	8.7	4.7	12.8	35.5	7.0		
	50～59歳	100.0 (65)	52.3	13.8	26.2	24.6	10.8	6.2	4.6	38.5	9.2		
	60歳以上	100.0 (53)	52.8	7.5	26.4	17.0	7.5	1.9	11.3	43.4	3.8		
愛の手帳の程度別	1度	100.0 (41)	78.0	17.1	19.5	29.3	—	—	34.1	19.5	2.4		
	2度	100.0 (191)	69.6	8.9	24.6	37.7	1.6	1.0	23.6	20.4	9.9		
	3度	100.0 (163)	68.7	15.3	38.7	35.6	5.5	3.7	10.4	23.9	7.4		
	4度	100.0 (353)	56.4	7.9	31.7	29.2	7.9	5.4	2.0	40.2	3.4		
回答者別	本人が回答	100.0 (310)	55.2	9.4	33.9	26.1	7.7	3.9	2.9	42.3	2.6		
	本人以外が回答	100.0 (355)	69.0	9.6	25.9	38.3	2.5	1.7	18.9	22.8	8.2		

注) 回答者別のうち、回答者が不明のものは省略した。

5 その他の福祉サービス等

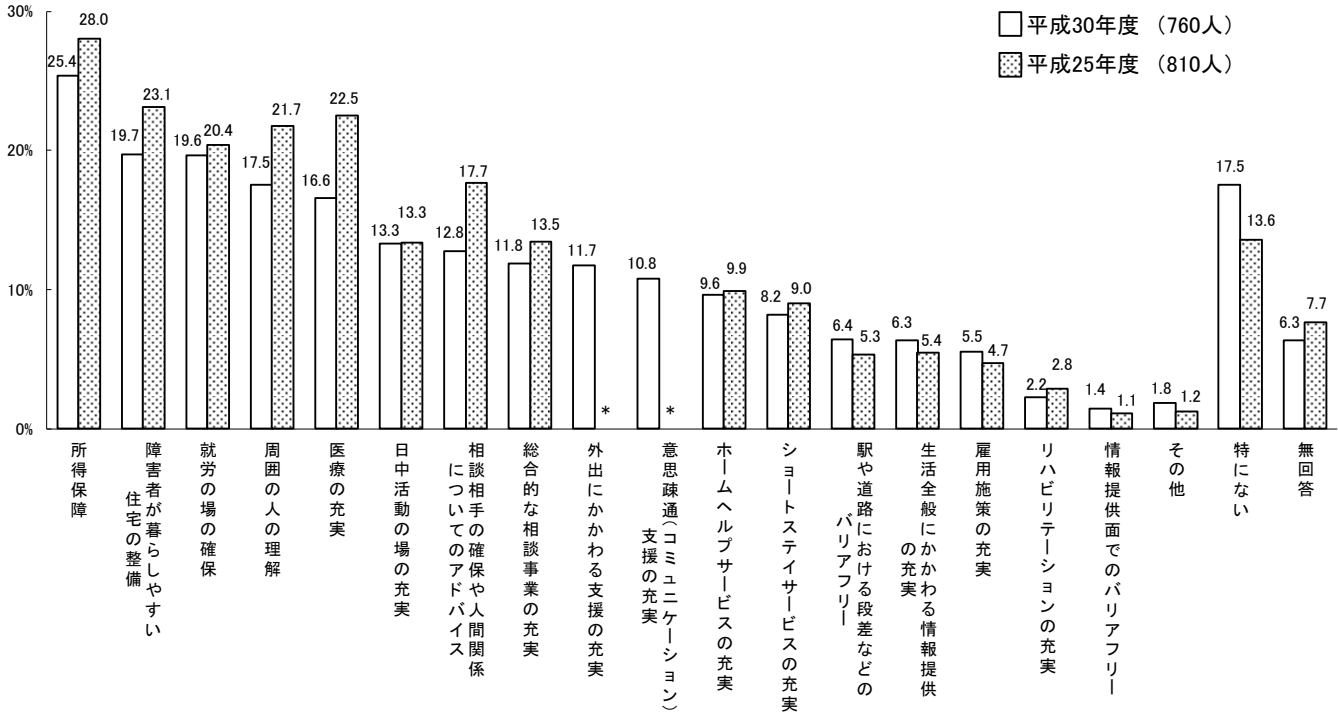
地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

平成25年度調査よりも「医療の充実」の割合が5.9ポイント減少

地域生活をしたり、しようとする上で、必要な福祉サービス等は何か聞いたところ、「所得保障」の割合が25.4%、「障害者が暮らしやすい住宅の整備」が19.7%、「就労の場の確保」が19.6%となっている。

平成25年度調査と比べて、「医療の充実」は5.9ポイント減少し、16.6%となっている。
(図Ⅲ-11-1 本文157p)

図Ⅲ-11-1 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕



注) *は、平成25年度調査では選択肢を設けていなかった。

○ 精神障害者499人（回答者）の状況

※報告書の「第4章 精神障害者の状況（165p～229p）」からの主な結果の抜粋

1 就労の状況

(1) 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－年齢階級別

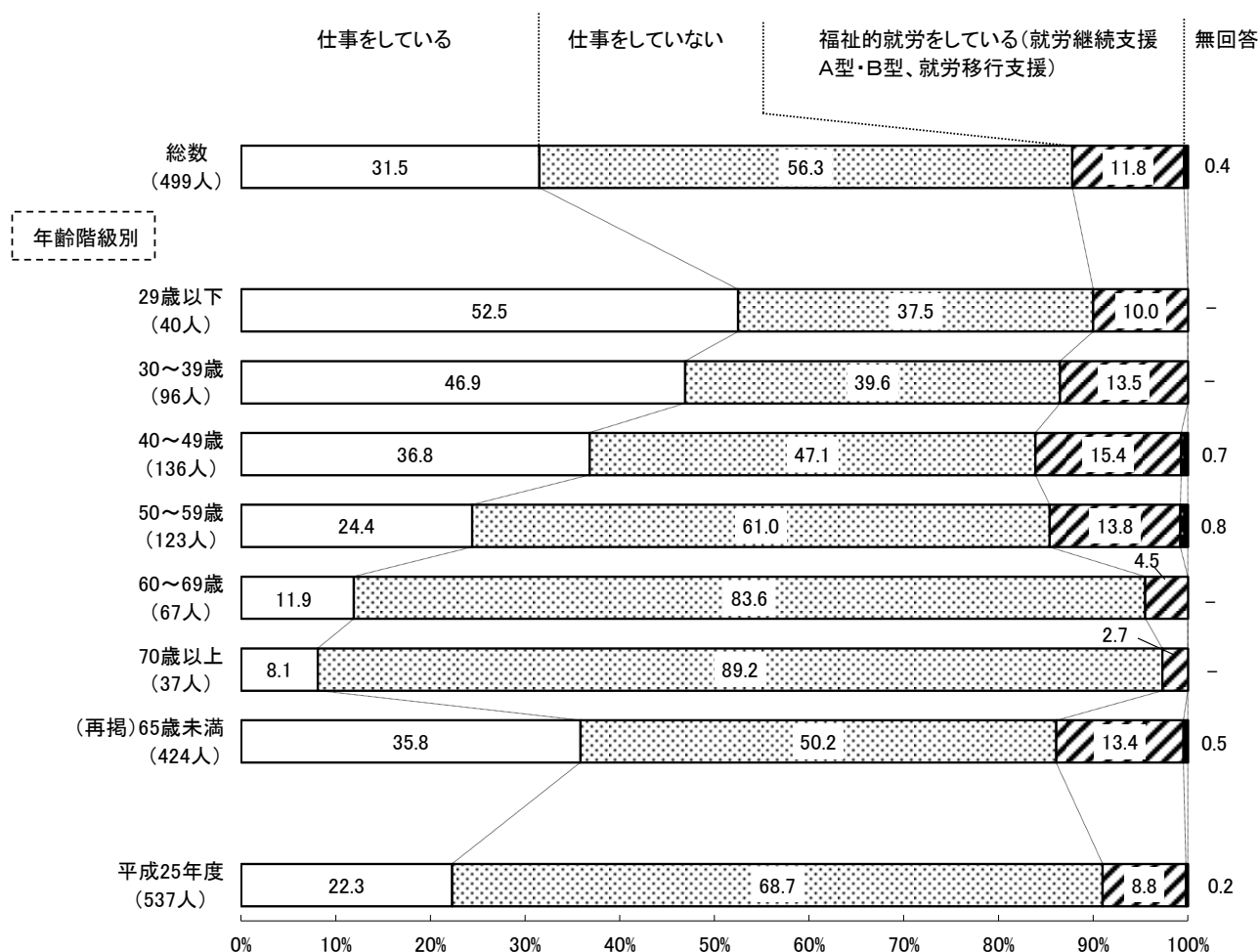
「仕事をしている」人の割合は、平成25年度調査よりも9.2ポイント増加し31.5%、「仕事をしていない」人は12.4ポイント減少し56.3%

収入を伴う仕事をしているか聞いたところ、「仕事をしている」の割合が31.5%、「仕事をしていない」が56.3%、「福祉的就労をしている」が11.8%となっている。

年齢階級別にみると、「仕事をしている」の割合は、29歳以下及び30代では、それぞれ52.5%、46.9%となっている。

平成25年度調査と比べて、「仕事をしている」の割合は、9.2ポイント増加し、「仕事をしていない」は、12.4ポイント減少している。（図IV-5-1 本文186p）

図IV-5-1 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－年齢階級別



(2) 仕事の種類〔複数回答〕－年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

※調査基準日現在、「仕事をしている」と回答した157人が対象

「非正規の職員・従業員」の割合が最も高く66.9%、「正規の職員・従業員」の割合は21.0%

仕事の種類を聞いたところ、「非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））」の割合が66.9%で最も高く、また、「正規の職員・従業員」が21.0%となっている。（表Ⅳ-5-1 本文188p）

表Ⅳ-5-1 仕事の種類〔複数回答〕－年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

		総数	正規の職員・従業員	会社等の役員	約ト非 職・正 員・規 アルの 派遣バ 職員イ を含むト・ （日従 ）雇員 （等（パ 契ー）	自営業	家業の手伝い	内職	その他
総数		100.0 (157)	21.0	1.3	66.9	4.5	2.5	3.2	2.5
年齢階級別	29歳以下	100.0 (21)	23.8	-	76.2	-	-	-	-
	30～39歳	100.0 (45)	28.9	-	62.2	-	6.7	4.4	2.2
	40～49歳	100.0 (50)	16.0	4.0	72.0	6.0	-	-	4.0
	50～59歳	100.0 (30)	23.3	-	56.7	6.7	3.3	6.7	3.3
	60歳以上	100.0 (11)	-	-	72.7	18.2	-	9.1	-
程度帳別の	2級	100.0 (39)	10.3	2.6	69.2	7.7	2.6	5.1	5.1
	3級	100.0 (116)	25.0	0.9	65.5	3.4	2.6	2.6	1.7

注）手帳の程度別のうち、1級は、該当者がいないため、省略した。

(3) 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

－性別、年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である139人が対象

仕事をしていく上で困ることは、男性では「人間関係（職場内でのいじめなど）」の割合が27.7%、女性では「相手に対して、言いたい内容が伝わらない」が28.6%

仕事をしていく上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」の割合が71.2%、「困ることは特にない」が23.7%となっている。

性別でみると、男性では「人間関係（職場内でのいじめなど）」の割合が27.7%、女性では「相手に対して、言いたい内容が伝わらない」が28.6%となっている。

年齢階級別にみると、29歳以下では「相手に対して、言いたい内容が伝わらない」の割合が42.9%、50歳以上では「人間関係（職場内でのいじめなど）」が43.8%となっている。（表 IV-5-4

本文194p）

表 IV-5-4 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

－性別、年齢階級、精神障害者保健福祉手帳の程度別

		総 数	困 る こ と が あ る	困ることは特にない											困 る こ と は 特 に な い	無 回 答
				仕 事 の 内 容	人 間 関 係 （ 職 場 内 で の い じ め な ど ）	相 手 に 対 し て 、 言 い た い 内 容 が 伝 わ ら な い	相 手 の 言 っ て い る こ と が 分 か ら な い	職 場 の （ 物 理 的 な ） バ リ ア フ リ ー 化 が 不 十 分	勤 務 時 間 ・ 日 数	通 勤 距 離 ・ 時 間	通 勤 時 の 混 雑	定 期 的 な 通 院 や 健 康 管 理 と の 両 立	急 な 体 調 の 変 化 へ の 配 慮 が な い	そ の 他		
総数		100.0 (139)	71.2	17.3	26.6	20.1	12.2	1.4	13.7	12.2	11.5	13.7	10.8	7.9	23.7	5.0
性 別	男	100.0 (83)	69.9	13.3	27.7	14.5	12.0	2.4	10.8	15.7	14.5	13.3	9.6	7.2	25.3	4.8
	女	100.0 (56)	73.2	23.2	25.0	28.6	12.5	－	17.9	7.1	7.1	14.3	12.5	8.9	21.4	5.4
年 齢 階 級 別	29歳以下	100.0 (21)	81.0	28.6	23.8	42.9	28.6	－	19.0	9.5	9.5	9.5	－	－	19.0	－
	30～39歳	100.0 (40)	72.5	17.5	25.0	27.5	10.0	2.5	17.5	10.0	17.5	17.5	5.0	5.0	20.0	7.5
	40～49歳	100.0 (46)	60.9	13.0	17.4	10.9	8.7	2.2	10.9	13.0	4.3	10.9	21.7	10.9	32.6	6.5
	50歳以上	100.0 (32)	78.1	15.6	43.8	9.4	9.4	－	9.4	15.6	15.6	15.6	9.4	12.5	18.8	3.1
程 度 帳 別 の	2級	100.0 (32)	71.9	9.4	15.6	15.6	12.5	－	18.8	9.4	12.5	21.9	18.8	3.1	25.0	3.1
	3級	100.0 (105)	71.4	19.0	30.5	21.0	11.4	1.9	12.4	13.3	11.4	11.4	8.6	9.5	22.9	5.7

注）手帳の程度別のうち、1級は該当者がいないため、省略した。

2 経済基盤

(1) 収入の種類〔3つまでの複数回答〕

一年齢階級、年間収入額（生活保護費を除く）、診断名〔複数回答〕別

収入の種類は「年金・恩給」の割合が47.3%、「賃金・給料」が31.5%

平成29年中の収入の種類を聞いたところ、「年金・恩給」の割合が47.3%、「賃金・給料」が31.5%となっている。

平成25年度調査と比べて、「賃金・給料」の割合が11.9ポイント増加している。（表IV-6-1本文200p）

表IV-6-1 収入の種類〔3つまでの複数回答〕
一年齢階級、年間収入額（生活保護費を除く）、診断名〔複数回答〕別

		総数	賃金・給料	事業所得	内職収入	家賃・地代	利子・配当	仕送り・小遣い	養育費・慰謝料	年金・恩給	生活保護費	手当	雇用保険	保険金・補償金	作業所等の工賃	その他の収入	収入はなかった	無回答
総数		100.0 (499)	31.5	1.0	0.6	2.8	1.2	8.6	0.6	47.3	25.1	3.6	1.8	0.2	7.0	4.0	7.8	1.0
年齢階級別	29歳以下	100.0 (40)	50.0	-	-	-	2.5	27.5	-	30.0	5.0	2.5	-	-	2.5	7.5	10.0	2.5
	30～39歳	100.0 (96)	43.8	1.0	1.0	1.0	2.1	11.5	1.0	35.4	17.7	3.1	2.1	-	10.4	2.1	10.4	-
	40～49歳	100.0 (136)	36.8	2.2	-	2.9	0.7	9.6	0.7	41.2	22.1	4.4	5.1	-	8.1	2.2	8.1	0.7
	50～59歳	100.0 (123)	26.8	-	1.6	2.4	1.6	6.5	0.8	43.9	37.4	4.1	-	0.8	7.3	5.7	8.1	-
	60～69歳	100.0 (67)	16.4	-	-	4.5	-	-	-	74.6	28.4	3.0	-	-	4.5	7.5	4.5	3.0
	70歳以上	100.0 (37)	2.7	2.7	-	8.1	-	-	-	81.1	29.7	2.7	-	-	2.7	-	2.7	2.7
	(再掲)65歳以上	100.0 (75)	4.0	1.3	-	6.7	-	-	-	82.7	28.0	4.0	-	-	2.7	4.0	2.7	2.7
年間収入額（生活保護費を除く）別	収入なし	100.0 (90)	-	-	-	-	-	-	-	-	58.9	-	-	-	-	-	40.0	1.1
	50万円未満	100.0 (73)	23.3	1.4	1.4	-	-	26.0	-	38.4	27.4	4.1	-	-	21.9	6.8	-	-
	50～100万円未満	100.0 (134)	24.6	-	-	2.2	0.7	6.7	1.5	75.4	26.1	6.0	1.5	-	7.5	3.7	-	-
	100～150万円未満	100.0 (75)	45.3	1.3	-	4.0	2.7	12.0	-	66.7	12.0	2.7	6.7	-	8.0	5.3	-	-
	150～200万円未満	100.0 (27)	63.0	3.7	-	7.4	7.4	11.1	-	55.6	7.4	11.1	-	-	3.7	-	-	-
	200～250万円未満	100.0 (25)	76.0	-	-	8.0	-	4.0	4.0	40.0	-	-	8.0	-	4.0	4.0	-	-
	250～300万円未満	100.0 (14)	71.4	-	-	14.3	-	-	-	35.7	-	-	-	-	-	-	-	-
	300～400万円未満	100.0 (10)	80.0	-	-	-	-	-	-	40.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	400万円以上	100.0 (19)	73.7	5.3	5.3	10.5	5.3	5.3	-	31.6	-	5.3	-	5.3	-	21.1	-	-
診断名〔複数回答〕別	アルコール・薬物依存症	100.0 (11)	18.2	-	-	-	-	9.1	-	36.4	45.5	-	-	-	-	-	18.2	-
	統合失調症	100.0 (189)	19.6	-	-	3.7	0.5	8.5	0.5	59.8	28.0	5.3	2.1	-	11.6	2.6	5.3	1.6
	そううつ病、うつ病	100.0 (217)	32.3	1.8	0.9	2.3	1.8	8.3	0.5	43.3	25.3	0.5	2.3	0.5	4.1	4.6	9.2	0.5
	パーソナリティ障害	100.0 (10)	20.0	-	-	-	10.0	20.0	-	30.0	20.0	-	-	-	-	20.0	10.0	-
	てんかん	100.0 (32)	25.0	-	3.1	3.1	-	6.3	-	46.9	18.8	12.5	-	-	6.3	3.1	15.6	3.1
	発達障害（自閉症、学習障害など）	100.0 (85)	58.8	-	-	1.2	3.5	14.1	2.4	32.9	12.9	2.4	2.4	-	5.9	5.9	5.9	-
	高次脳機能障害	100.0 (19)	42.1	5.3	-	-	-	10.5	-	63.2	5.3	21.1	-	-	5.3	-	-	-
	その他	100.0 (70)	32.9	-	-	-	1.4	5.7	-	40.0	17.1	1.4	1.4	-	2.9	5.7	15.7	1.4
平成25年度		100.0 (537)	19.6	0.7	0.4	0.7	0.6	10.1	0.2	46.6	32.6	6.1	0.6	0.6	7.6	2.4	9.5	1.3

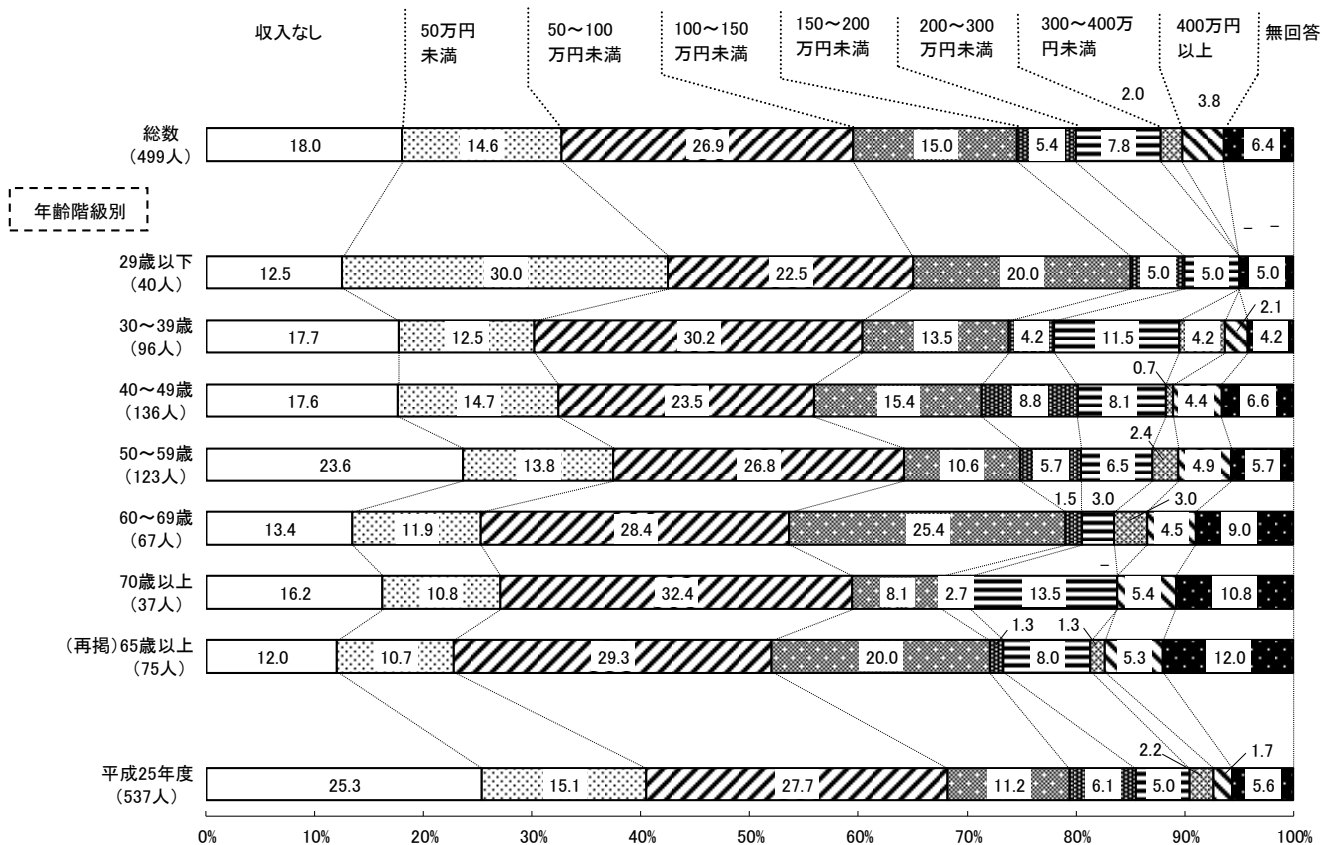
(2) 年間収入額（生活保護費を除く）－年齢階級別

ねんしゅう ねんかんしゅうにゅうがく せいかつ ほ ご ひ のぞ ねんれいかいきゅうべつ
 年収は「50～100万円未満」の割合が26.9%

平成29年中の収入額を聞いたところ、「50～100万円未満」の割合が26.9%、「収入なし」が18.0%となっている。

平成25年度調査と比べて、「収入なし」の割合は、7.3ポイント減少している。（図IV-6-4 本文204p）

図IV-6-4 年間収入額（生活保護費を除く）－年齢階級別



3 社会参加等

社会参加をする上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

年齢階級、診断名〔複数回答〕別

社会参加をする上で妨げになっていることは、「経済的な理由」の割合が 35.7%

社会参加をする上で妨げになっていることがあるか聞いたところ、「経済的な理由」の割合が 35.7%、「まわりの人の障害者に対する理解不足」が 21.8%となっている。一方で、「特にない」の割合は 26.3%となっている。

年齢階級別にみると、29歳以下では「まわりの人の障害者に対する理解不足」の割合が 35.0%、「一緒に行く仲間がいない」が 32.5%となっている。

診断名別にみると、発達障害（自閉症、学習障害など）では「まわりの人の障害者に対する理解不足」の割合が 34.1%となっている。（表 IV-7-4 本文209p）

表 IV-7-4 社会参加をする上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

年齢階級、診断名〔複数回答〕別

		総数	経済的な理由	介助者がいない	情報がない	障害者に対する理解不足	まわりの人の障害者に対する理解不足	拒否される理由	施設等を利用しない	適切な相談相手がない	一緒に仲間にいく仲間がいない	配慮されないマーク、を	その他	特にない	無回答
総数		100.0 (499)	35.7	3.8	17.0	21.8	2.8	16.0	18.8	3.4	13.4	26.3	3.2		
年齢階級別	29歳以下	100.0 (40)	30.0	2.5	15.0	35.0	7.5	12.5	32.5	5.0	12.5	15.0	5.0		
	30～39歳	100.0 (96)	41.7	5.2	18.8	24.0	4.2	17.7	22.9	5.2	11.5	20.8	-		
	40～49歳	100.0 (136)	43.4	-	15.4	26.5	2.2	16.2	16.2	2.9	11.8	25.7	1.5		
	50～59歳	100.0 (123)	36.6	4.1	22.0	19.5	0.8	19.5	19.5	3.3	10.6	27.6	4.1		
	60～69歳	100.0 (67)	19.4	6.0	13.4	17.9	4.5	14.9	11.9	3.0	16.4	35.8	6.0		
	70歳以上	100.0 (37)	24.3	10.8	10.8	-	-	5.4	13.5	-	29.7	32.4	8.1		
	（再掲）65歳以上	100.0 (75)	21.3	8.0	13.3	10.7	4.0	10.7	14.7	1.3	21.3	36.0	5.3		
診断名 （複数回答）別	アルコール・薬物依存症	100.0 (11)	36.4	-	27.3	9.1	-	27.3	9.1	-	18.2	18.2	9.1		
	統合失調症	100.0 (189)	32.3	1.6	19.0	20.6	3.7	16.4	20.1	2.6	10.6	27.0	3.7		
	そううつ病、うつ病	100.0 (217)	41.9	4.6	17.5	21.2	1.4	17.1	18.4	4.1	15.7	22.1	3.7		
	パーソナリティ障害	100.0 (10)	40.0	-	20.0	10.0	-	30.0	20.0	-	10.0	20.0	10.0		
	てんかん	100.0 (32)	37.5	6.3	18.8	31.3	15.6	25.0	18.8	6.3	12.5	21.9	3.1		
	発達障害（自閉症、学習障害など）	100.0 (85)	37.6	1.2	18.8	34.1	-	16.5	24.7	4.7	15.3	18.8	1.2		
	高次脳機能障害	100.0 (19)	10.5	10.5	15.8	31.6	5.3	15.8	10.5	10.5	26.3	21.1	5.3		
	その他	100.0 (70)	38.6	2.9	21.4	22.9	4.3	21.4	20.0	8.6	7.1	25.7	5.7		
平成25年度		100.0 (537)	31.8	5.0	15.3	21.4	1.7	13.8	18.6	...	17.3	27.6	3.2		

注）※は、平成25年度調査では選択肢を設けていなかった。

4 情報の入手やコミュニケーションの手段

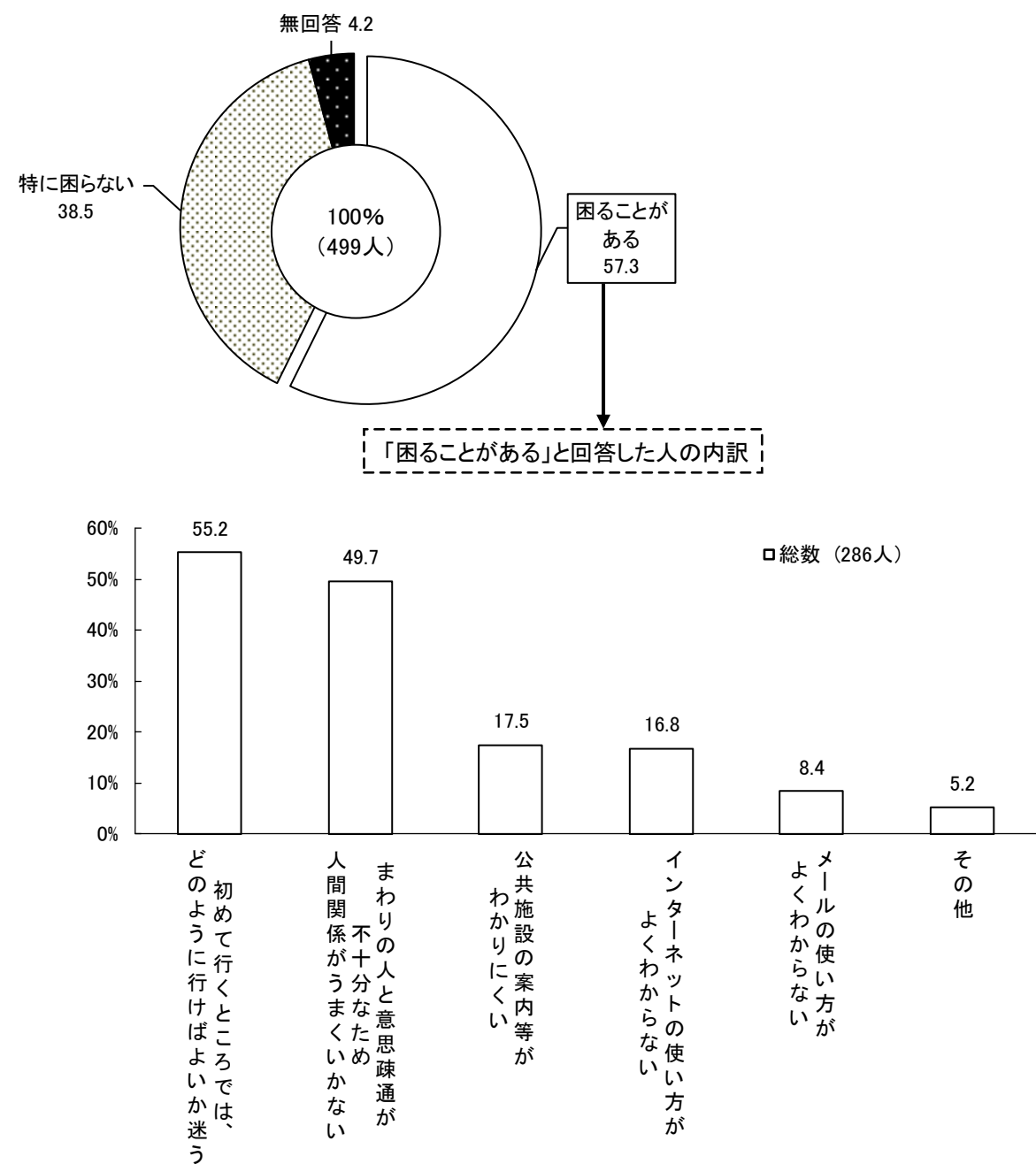
情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること（2つまでの複数回答）

情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることは、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」の割合が55.2%

情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」と答えた割合が57.3%となっている。

困ることの内容では、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」の割合が55.2%、「まわりの人と意思疎通が不十分なため人間関係がうまくいかない」が49.7%となっている。（図IV-8-2 本文 212p）

図IV-8-2 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること（2つまでの複数回答）



5 その他の福祉サービス等

今後利用したい福祉サービス等〔複数回答〕
－年齢階級、診断名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

今後利用したい福祉サービス等は、「相談サービス（地域活動支援センターなど）」の割合が22.2%

今後利用したい福祉サービス等は何か聞いたところ、「相談サービス」の割合が22.2%、「就労支援サービス」が21.0%、「ホームヘルプサービス」が15.6%となっている。

年齢階級別にみると、「就労支援サービス」の割合は、29歳以下では40.0%となっている。

（表Ⅳ-10-3 本文225p）

表Ⅳ-10-3 今後利用したい福祉サービス等〔複数回答〕
－年齢階級、診断名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

	総数	ホームヘルプ	事業所等移行支援	通所サービス	ショートステイ	セ（地域活動支援センターなど）	相談サービス	生活障害者就業・生活支援センター	就労支援サービス	外に出るに充てられる	情報提供の充実	訪問看護	デイケア	（オンブズマン）	自助グループ活動	その他	特になし	無回答
総数	100.0 (499)	15.6	9.0	4.0	22.2	21.0	9.4	15.2	9.2	7.4	2.8	3.2	3.8	35.7	2.8			
年齢階級別	29歳以下	100.0 (40)	7.5	10.0	5.0	20.0	40.0	7.5	15.0	—	10.0	—	—	2.5	35.0	2.5		
	30～39歳	100.0 (96)	11.5	14.6	3.1	25.0	30.2	8.3	16.7	3.1	7.3	2.1	4.2	5.2	31.3	1.0		
	40～49歳	100.0 (136)	19.9	8.1	0.7	23.5	23.5	10.3	14.7	9.6	5.1	2.2	5.9	4.4	37.5	1.5		
	50～59歳	100.0 (123)	9.8	5.7	2.4	24.4	20.3	6.5	20.3	13.0	5.7	5.7	3.3	3.3	37.4	3.3		
	60～69歳	100.0 (67)	20.9	6.0	10.4	19.4	4.5	11.9	9.0	16.4	11.9	1.5	—	4.5	34.3	6.0		
	70歳以上	100.0 (37)	29.7	13.5	10.8	10.8	—	16.2	8.1	8.1	10.8	2.7	—	—	37.8	5.4		
	（再掲）65歳以上	100.0 (75)	26.7	10.7	9.3	13.3	4.0	13.3	8.0	14.7	13.3	2.7	—	4.0	32.0	6.7		
診断名 （複数回答）別	アルコール・薬物依存症	100.0 (11)	—	—	9.1	36.4	18.2	9.1	18.2	—	18.2	—	9.1	—	27.3	—		
	統合失調症	100.0 (189)	21.7	12.2	3.7	24.9	16.4	9.0	15.3	14.8	11.1	2.6	3.7	2.6	28.0	3.7		
	そううつ病、うつ病	100.0 (217)	13.4	6.0	3.7	20.7	21.7	9.7	16.1	8.3	5.5	2.8	3.7	4.6	38.2	2.3		
	パーソナリティ障害	100.0 (10)	20.0	—	—	30.0	30.0	—	20.0	—	20.0	10.0	10.0	10.0	20.0	—		
	てんかん	100.0 (32)	18.8	3.1	6.3	25.0	18.8	18.8	21.9	6.3	—	—	—	—	40.6	6.3		
	発達障害（自閉症、学習障害など）	100.0 (85)	11.8	11.8	3.5	25.9	32.9	9.4	24.7	3.5	7.1	4.7	4.7	5.9	29.4	1.2		
	高次脳機能障害	100.0 (19)	15.8	21.1	21.1	15.8	21.1	—	15.8	5.3	21.1	—	—	5.3	36.8	—		
	その他	100.0 (70)	11.4	8.6	4.3	17.1	20.0	5.7	15.7	7.1	1.4	4.3	2.9	7.1	44.3	2.9		
主に過ごしたところ別	自分の家	100.0 (297)	18.2	7.7	4.4	23.2	17.5	12.1	15.2	10.4	7.7	3.0	1.7	4.4	35.7	2.7		
	職場（福祉的就労の施設を除く）	100.0 (88)	4.5	5.7	1.1	25.0	29.5	4.5	17.0	3.4	2.3	2.3	5.7	3.4	47.7	—		
	職場（福祉的就労の施設）	100.0 (39)	17.9	20.5	2.6	20.5	38.5	7.7	17.9	17.9	2.6	5.1	5.1	2.6	23.1	—		
	通所施設（生活介護・自立訓練事業所など）	100.0 (15)	26.7	6.7	6.7	6.7	20.0	—	20.0	20.0	6.7	—	13.3	13.3	26.7	—		
	デイケア等	100.0 (14)	28.6	14.3	21.4	7.1	7.1	—	14.3	—	57.1	—	—	—	14.3	—		
平成25年度		100.0 (537)	14.7	5.8	6.3	22.0	20.5	...	17.9	8.4	10.8	4.7	4.1	4.1	33.9	5.6		

注 1）「平日の日中主に過ごしたところ別」のうち、「学校」、「地域活動支援センター」、「入所施設」及び「その他」は、母数が少数のため、省略した。

2）※は、平成25年度調査では選択肢を設けていなかった。

○ 難病患者899人（回答者）の状況

※報告書の「第5章 難病患者の状況（231p～307p）」からの主な結果の抜粋

※難病は、対象疾病339疾病（指定難病 331疾病 + 都単独医療費助成対象疾病 8疾病）を、下記表のとおり「神経・筋疾患」、「代謝系疾患」、「皮膚・結合組織疾患」、「免疫系疾患」、「循環器系疾患」、「血液系疾患」、「腎・泌尿器系疾患」、「骨・関節系疾患」、「内分泌系疾患」、「呼吸器系疾患」、「視覚系疾患」、「聴覚・平衡機能系疾患」、「消化器系疾患」、「染色体または遺伝子に変化を伴う症候群」及び「耳鼻科系疾患」の十五疾患群に分類している。

※平成25年度調査において、難病は対象疾病80疾病を「神経系」、「膠原系」及び「その他」に三分類していた。その後、平成27年1月1日の「難病の患者に対する医療等に関する法律」（平成26年法律第50号）施行以降、順次指定難病が拡充されており、平成25年度調査と本調査では対象としている難病患者が異なるため、平成25年度調査結果との比較は参考として取り扱う。（本文231p）

注）平成25年度調査における分類は、「平成25年度」の欄に記載しており、「-」となっている疾病は、平成25年度調査では対象でなかった疾病である。また、疾病名は、平成25年度調査から一部変更となっている。

疾病番号	神経・筋疾患（84疾病）	平成25年度 の分類
1	球脊髄性筋萎縮症	神経系
2	筋萎縮性側索硬化症	神経系
3	脊髄性筋萎縮症	神経系
4	原発性側索硬化症	-
5	進行性核上性麻痺	神経系
6	パーキンソン病	神経系
7	大脳皮質基底核変性症	神経系
8	ハンチントン病	神経系
9	神経有棘赤血球症	-
10	シャルコー・マリー・トゥース病	神経系
11	重症筋無力症	神経系
12	先天性筋無力症候群	-
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	神経系
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	神経系
15	封入体筋炎	-
16	クロー・深瀬症候群	-
17	多系統萎縮症	神経系
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	神経系
22	もやもや病	神経系
23	プリオン病	神経系
24	亜急性硬化性全脳炎	神経系
25	進行性多巣性白質脳症	-
26	HTLV-1関連脊髄症	-
27	特発性基底核石灰化症	-
29	ウルリッヒ病	-
30	遠位型ミオパチー	-
31	ベスレムミオパチー	-
32	自己食空胞性ミオパチー	-
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	-
111	先天性ミオパチー	神経系
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	-
113	筋ジストロフィー	神経系
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	神経系
115	遺伝性周期性四肢麻痺	-
116	アトピー性脊髄炎	-
117	脊髄空洞症	膠原系
118	脊髄髄膜瘤	-
119	アイザックス症候群	-
120	遺伝性ジストニア	-
121	神経フェリチン症	-
122	脳表ヘモジデリン沈着症	-
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	-
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	-
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	-
126	ペリー症候群	-
127	前頭側頭葉変性症	-
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	-
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	-

疾病番号	神経・筋疾患（84疾病）（続）	平成25年度 の分類
130	先天性無痛無汗症	-
131	アレキサンダー病	-
132	先天性核上性球麻痺	-
133	メビウス症候群	-
135	アイカルディ症候群	-
136	片側巨脳症	-
137	限局性皮質異形成	-
138	神経細胞移動異常症	-
139	先天性大脳白質形成不全症	-
140	ドラベ症候群	-
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	-
142	ミオクロニー欠作てんかん	-
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	-
144	レノックス・ガストー症候群	-
145	ウエスト症候群	-
146	大田原症候群	-
147	早期ミオクロニー脳症	-
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	-
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	-
150	環状20番染色体症候群	-
151	ラスムッセン脳炎	-
152	PCDH19関連症候群	-
153	難治頻回部分発作重積急性脳炎	-
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	-
155	ランドウ・クレフナー症候群	-
156	レット症候群	-
157	スタージ・ウェバー症候群	神経系
158	結節性硬化症	神経系
159	色素性乾皮症	-
177	ジュベール症候群関連疾患(有馬症候群から名称変更)	-
201	アンジェルマン症候群	-
307	カナハン病	-
308	進行性白質脳症	-
309	進行性ミオクローヌステんかん	-
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	-
都83	母斑症(指定難病を除く。)	神経系

疾病番号	代謝系疾患（43疾病）	平成25年度 の分類
19	ライソゾーム病	神経系
20	副腎白質ジストロフィー	神経系
21	ミトコンドリア病	神経系
28	全身性アミロイドーシス	神経系
79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	その他
169	メンケス病	-
171	ウィルソン病	その他
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	-
240	フェニルケトン尿症	-

疾病 番号	代謝系疾患（43疾病）（続）	平成25年度 の分類
241	高チロシン血症1型	－
242	高チロシン血症2型	－
243	高チロシン血症3型	－
244	メーブルシロップ尿症	－
245	プロピオン酸血症	－
246	メチルマロン酸血症	－
247	イソ吉草酸血症	－
248	グルコーストランスポーター1欠損症	－
249	グルタル酸血症1型	－
250	グルタル酸血症2型	－
251	尿素サイクル異常症	－
252	リジン尿性蛋白不耐症	－
253	先天性葉酸吸収不全	－
254	ボルフィリン症	－
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	－
256	筋型糖原病	－
257	肝型糖原病	－
258	ガラクトースー１ーリン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	－
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	－
260	シトステロール血症	－
261	タンジール病	－
262	原発性高カイロミクロン血症	－
263	脳髄黄色腫症	－
264	無β リボタンパク血症	－
265	脂肪萎縮症	－
316	カルニチン回路異常症	－
317	三頭酵素欠損症	－
318	シトリン欠損症	－
319	セピアブテリン還元酵素(SR) 欠損症	－
321	非ケトーシス型高グリシン血症	－
322	βーケトチオラーゼ欠損症	－
323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	－
324	メチルグルタコン酸尿症	－
326	大理石骨病	－

疾病 番号	皮膚・結合組織疾患（15疾病）	平成25年度 の分類
34	神経線維腫症	神経系
35	天疱瘡	その他
36	表皮水疱症	その他
37	膿疱性乾癬（汎発型）	その他
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	膠原系
39	中毒性表皮壊死症	膠原系
51	全身性強皮症	膠原系
160	先天性魚鱗癬	－
161	家族性良性慢性天疱瘡	－
162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	－
163	特発性後天性全身性無汗症	－
166	弾性線維性仮性黄色腫	－
167	マルファン症候群	－
168	エーラス・ダンロス症候群	－
170	オクシタル・ホーン症候群	－

疾病 番号	免疫系疾患（29疾病）	平成25年度 の分類
40	高安静脈炎	膠原系
41	巨細胞性動脈炎	－
42	結節性多発動脈炎	膠原系
43	顕微鏡的多発血管炎	膠原系
44	多発血管炎性肉芽腫症	膠原系
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	その他
46	悪性関節リウマチ	膠原系
47	バージャー病	その他
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	－
49	全身性エリテマトーデス	膠原系
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	膠原系
52	混合性結合組織病	膠原系
53	シェーグレン症候群	膠原系
54	成人ステル病	膠原系
55	再発性多発軟骨炎	－
56	ペーチェット病	膠原系
106	クリオピリン関連周期熱症候群	－

疾病 番号	免疫系疾患（29疾病）（続）	平成25年度 の分類
107	若年性特発性関節炎（全身型若年性特発性関節炎から名称変更）	－
108	TNF受容体関連周期性症候群	－
110	ブラウ症候群	－
266	家族性地中海熱	－
267	高IgD症候群	－
268	中條・西村症候群	－
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	－
288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	－
300	IgG4関連疾患	－
306	好酸球性副鼻腔炎	－
325	遺伝性自己炎症疾患	－
都88	古典的特発性好酸球増多症候群	膠原系

疾病 番号	循環器系疾患（23疾病）	平成25年度 の分類
57	特発性拡張型心筋症	その他
58	肥大型心筋症	その他
59	拘束型心筋症	その他
207	総動脈幹遺残症	－
208	修正大血管転位症	－
209	完全大血管転位症	－
210	単心室症	－
211	左心低形成症候群	－
212	三尖弁閉鎖症	－
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	－
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	－
215	ファロー四徴症	－
216	両大血管右室起始症	－
217	エプスタイン病	－
279	巨大静脈奇形（頸部口腔咽頭びまん性病変）	－
280	巨大動脈奇形（頸部顔面又は四肢病変）	－
281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	神経系
311	先天性三尖弁狭窄症	－
312	先天性僧帽弁狭窄症	－
313	先天性肺静脈狭窄症	－
314	左肺動脈右肺動脈起始症	－
都77	悪性高血圧	その他
都95	遺伝性QT延長症候群	その他

疾病 番号	血液系疾患（14疾病）	平成25年度 の分類
60	再生不良性貧血	その他
61	自己免疫性溶血性貧血	－
62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	－
63	特発性血小板減少性紫斑病	その他
64	血栓性血小板減少性紫斑病	－
65	原発性免疫不全症候群	その他
282	先天性赤血球形成異常性貧血	－
283	後天性赤芽球癆	－
284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	－
285	ファンconi貧血	－
286	遺伝性鉄芽球性貧血	－
327	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。）	－
331	特発性多中心性キャッスルマン病	－
都80	原発性骨髄線維症	その他

疾病 番号	腎・泌尿器系疾患（13疾病）	平成25年度 の分類
66	IgA腎症	－
67	多発性嚢胞腎	その他
109	非典型性溶血性尿毒症症候群	－
218	アルポート症候群	－
219	ギャロウェイ・モワト症候群	－
220	急速進行性糸球体腎炎	－
221	抗糸球体基底膜腎炎	－
222	一次性ネフローゼ症候群	その他
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	その他
224	紫斑病性腎炎	－
225	先天性腎性尿崩症	－
226	間質性膀胱炎（ハンナ型）	－
315	ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／LMX1B関連腎症	－

疾病番号	骨・関節系疾患（13疾患）	平成25年度の分類
68	黄色靱帯骨化症	その他
69	後縦靱帯骨化症	神経系
70	広範脊柱管狭窄症	神経系
71	特発性大腿骨頭壊死症	膠原系
172	低ホスファターゼ症	-
238	ビタミンD抵抗性くる病／骨軟化症	-
270	慢性再発性多発性骨髄炎	-
271	強直性脊椎炎	膠原系
272	進行性骨化性線維異形成症	-
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	-
274	骨形成不全症	-
275	タナトフォリック骨異形成症	-
276	軟骨無形成症	-

疾病番号	内分泌系疾患（16疾患）	平成25年度の分類
72	下垂体性ADH分泌異常症	その他
73	下垂体性TSH分泌亢進症	その他
74	下垂体性PRL分泌亢進症	その他
75	クッシング病	その他
76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	その他
77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	その他
78	下垂体前葉機能低下症	その他
80	甲状腺ホルモン不応症	-
81	先天性副腎皮質酵素欠損症	-
82	先天性副腎低形成症	-
83	アジソン病	-
233	ウォルフラム症候群	-
235	副甲状腺機能低下症	-
236	偽性副甲状腺機能低下症	-
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	-
239	ビタミンD依存性くる病／骨軟化症	-

疾病番号	呼吸器系疾患（15疾患）	平成25年度の分類
84	サルコイドーシス	膠原系
85	特発性間質性肺炎	その他
86	肺動脈性肺高血圧症	その他
87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	その他
88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	その他
89	リンパ管筋腫症	その他
228	閉塞性細気管支炎	-
229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）	-
230	肺胞低換気症候群	-
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	-
277	リンパ管腫症／ゴーハム病	-
278	巨大リンパ管奇形（頸部顔面病変）	-
294	先天性横隔膜ヘルニア	-
330	先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症（先天性気管狭窄症から名称変更）	-
都91	びまん性汎細気管支炎	その他

疾病番号	視覚系疾患（9疾患）	平成25年度の分類
90	網膜色素変性症	その他
134	中隔視神経形成異常症／ドモルシア症候群	-
164	眼皮膚白皮症	-
301	黄斑ジストロフィー	-
302	レーベル遺伝性視神経症	-
303	アッシャー症候群	-
328	前眼部形成異常	-
329	無虹彩症	-
都97	網膜脈絡膜萎縮症	その他

疾病番号	聴覚・平衡機能系疾患（1疾患）	平成25年度の分類
190	聴耳腎症候群	-

疾病番号	消化器系疾患（21疾患）	平成25年度の分類
91	バッド・キアリ症候群	その他
92	特発性門脈圧亢進症	その他
93	原発性胆汁性胆管炎	その他
94	原発性硬化性胆管炎	その他
95	自己免疫性肝炎	その他
96	クローン病	その他
97	潰瘍性大腸炎	その他
98	好酸球性消化管疾患	-
99	慢性特発性偽性腸閉塞症	-
100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	-
101	腸管神経節細胞減少症	-
289	クローンカイト・カナダ症候群	-
290	非特異性多発性小腸潰瘍症	-
291	ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸型）	-
292	総排泄腔外反症	-
293	総排泄腔遺残	-
295	乳幼児肝巨大血管腫	-
296	胆道閉鎖症	-
298	遺伝性膵炎	-
299	嚢胞性線維症	-
都866	肝内結石症	その他

疾病番号	染色体または遺伝子に変化を伴う症候群（41疾患）	平成25年度の分類
102	ルビシシュタイン・ティビ症候群	-
103	CFC症候群	-
104	コステロ症候群	-
105	チャージ症候群	-
165	肥厚性皮膚骨膜症	-
173	VATER症候群	-
174	都須・ハコラ病	-
175	ウィーバー症候群	-
176	コフィン・ローリー症候群	-
178	モフット・ウィルソン症候群	-
179	ウィリアムズ症候群	-
180	ATR-X症候群	-
181	クルーゾン症候群	-
182	アペール症候群	-
183	ファイファー症候群	-
184	アントレー・ピクスラー症候群	-
185	コフィン・シリシス症候群	-
186	ロスムンド・トムソン症候群	-
187	歌舞伎症候群	-
188	多脾症候群	-
189	無脾症候群	-
191	ウェルナー症候群	-
192	コケイン症候群	-
193	ブラダー・ウィリ症候群	-
194	ソトス症候群	-
195	スーナン症候群	-
196	ヤング・シンブソン症候群	-
197	1p36欠失症候群	-
198	4p欠失症候群	-
199	5p欠失症候群	-
200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	-
202	スミス・マギニス症候群	-
203	22q11.2欠失症候群	-
204	エマヌエル症候群	-
205	脆弱X症候群関連疾患	-
206	脆弱X症候群	-
227	オスラー病	-
232	カーニー複合	-
287	エプスタイン症候群	-
297	アラジール症候群	-
310	先天異常症候群	-

疾病番号	耳鼻科系疾患（2疾患）	平成25年度の分類
304	若年発症型両側性感音難聴	-
305	遅発性内リンパ水腫	-

1 就労の状況

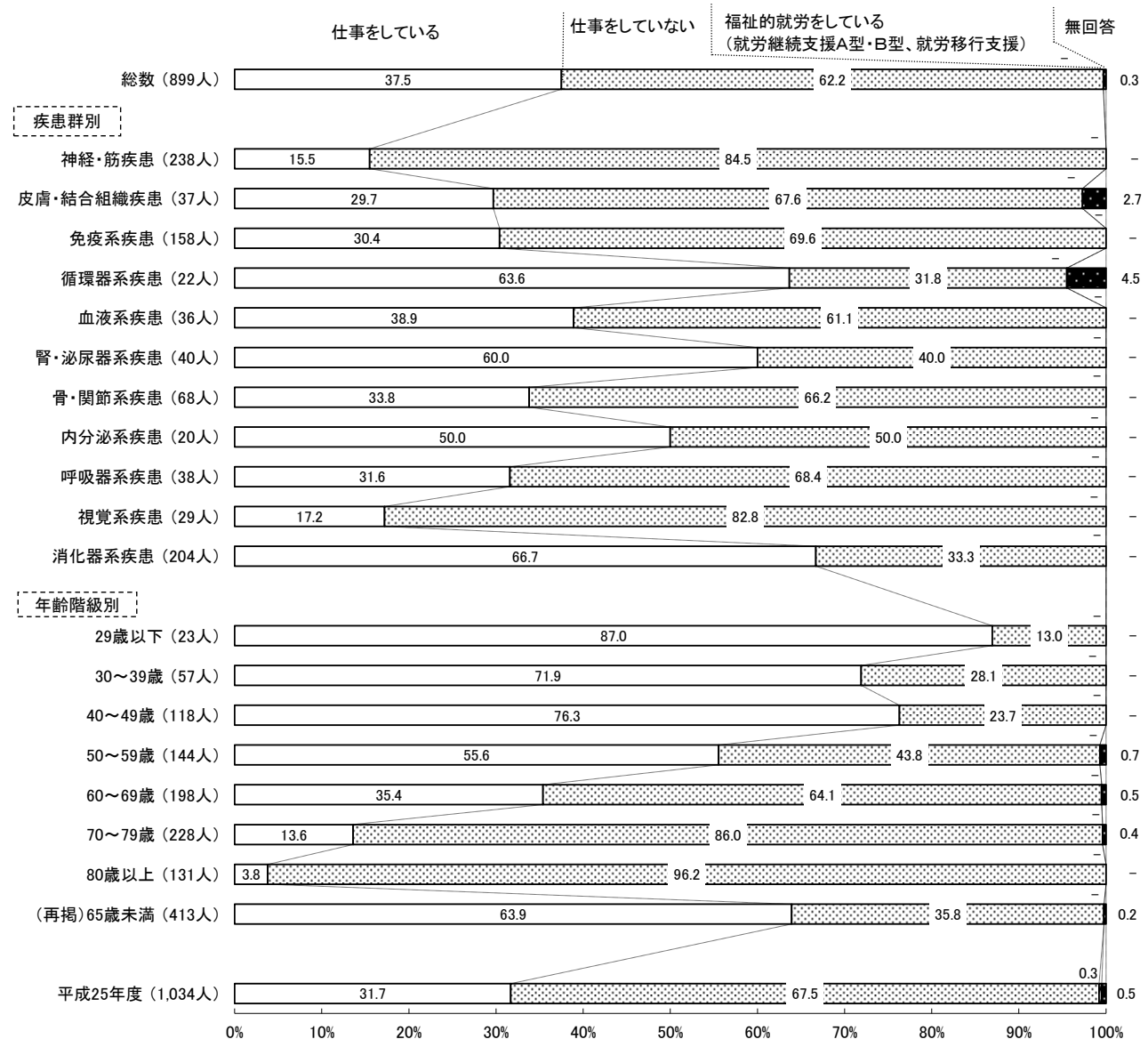
(1) 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－疾患群、年齢階級別

「仕事をしている」人の割合は37.5%。65歳未満では63.9%

収入を伴う仕事をしているか聞いたところ、「仕事をしている」の割合が37.5%、「仕事をしていない」が62.2%、「福祉的就労をしている（就労継続支援A型・B型、就労移行支援）」は該当者がいなかった。

年齢階級別にみると、「仕事をしている」の割合は、65歳未満では63.9%となっている。疾患群別にみると、「循環器系疾患」、「腎・泌尿器系疾患」及び「消化器系疾患」では「仕事をしている」の割合がいずれも6割以上となっている（63.6%、60.0%、66.7%）。（図V-5-1 本文262p）

図V-5-1 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－疾患群、年齢階級別



注) 疾患群別のうち、「聴覚・平衡機能系疾患」及び「耳鼻科系疾患」は該当者がいないため、「代謝系疾患」及び「染色体または遺伝子に変化を伴う症候群」は母数が少数のため、省略した。

(2) 仕事の種類〔複数回答〕－疾患群、年齢階級別

※調査基準日現在、「仕事をしている」と回答した337人が対象

「正規の職員・従業員」の割合が43.9%、「非正規の職員・従業員」が35.3%

仕事の種類を聞いたところ、「正規の職員・従業員」の割合が43.9%、「非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））」が35.3%となっている。
年齢階級別にみると、40代では「正規の職員・従業員」の割合が61.1%となっている。
(表 V-5-1 本文263p)

表 V-5-1 仕事の種類〔複数回答〕－疾患群、年齢階級別

		総 数	正 規 の 職 員 ・ 従 業 員	会 社 等 の 役 員	非 正 規 の 職 員 ・ 従 業 員 （ パ ー ト ・ ア ル バ イ ト ・ 日 雇 等 （ 契 約 職 員 、 派 遣 職 員 を 含 む ）	自 営 業	家 業 の 手 伝 い	内 職	そ の 他	無 回 答
総数		100.0 (337)	43.9	5.6	35.3	11.0	2.4	0.3	1.2	1.8
疾 患 群 別	神経・筋疾患	100.0 (37)	32.4	10.8	35.1	13.5	2.7	－	5.4	2.7
	皮膚・結合組織疾患	100.0 (11)	18.2	－	54.5	27.3	－	－	－	－
	免疫系疾患	100.0 (48)	31.3	2.1	41.7	16.7	6.3	2.1	－	2.1
	循環器系疾患	100.0 (14)	50.0	－	35.7	－	14.3	－	－	－
	血液系疾患	100.0 (14)	50.0	21.4	21.4	7.1	－	－	－	7.1
	腎・泌尿器系疾患	100.0 (24)	62.5	4.2	25.0	8.3	－	－	－	－
	骨・関節系疾患	100.0 (23)	43.5	8.7	21.7	17.4	4.3	－	－	4.3
	内分泌系疾患	100.0 (10)	50.0	－	40.0	10.0	－	－	－	－
	呼吸器系疾患	100.0 (12)	25.0	8.3	50.0	8.3	－	－	－	8.3
	消化器系疾患	100.0 (136)	49.3	4.4	36.0	8.8	0.7	－	1.5	0.7
年 齢 階 級 別	29歳以下	100.0 (20)	55.0	－	30.0	5.0	－	－	5.0	5.0
	30～39歳	100.0 (41)	58.5	7.3	26.8	2.4	－	2.4	－	2.4
	40～49歳	100.0 (90)	61.1	2.2	32.2	5.6	－	－	1.1	－
	50～59歳	100.0 (80)	55.0	2.5	27.5	8.8	5.0	－	－	2.5
	60～69歳	100.0 (70)	17.1	11.4	54.3	11.4	4.3	－	2.9	1.4
	70歳以上	100.0 (36)	5.6	11.1	36.1	41.7	2.8	－	－	2.8
	(再掲)65歳以上	100.0 (73)	6.8	13.7	47.9	26.0	4.1	－	1.4	1.4
平成25年度		100.0 (328)	36.6	8.2	35.1	16.2	2.7	0.9	2.4	0.3

注) 疾患群別のうち、「聴覚・平衡機能系疾患」、「染色体または遺伝子に変化を伴う症候群」及び「耳鼻科系疾患」は該当者がいないため、「代謝系疾患」及び「視覚系疾患」は母数が少数のため、省略した。

(3) 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

－性別、疾患群、仕事の種類〔複数回答〕別

※仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））である285人が対象

仕事をしていく上で困ることは、「定期的な通院や健康管理との両立」の割合が27.0%

仕事をしていく上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」の割合が57.5%、「困ることは特にない」が40.4%となっている。

困ることの内容は、「定期的な通院や健康管理との両立」の割合が27.0%、「通勤時の混雑」が13.0%となっている。

仕事の種類別にみると、正規の職員・従業員では「困ることがある」の割合が62.8%で、困ることの内容は「定期的な通院や健康管理との両立」が32.4%となっている。（表V-5-4 本文270p）

表V-5-4 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

－性別、疾患群、仕事の種類〔複数回答〕別

		総数	困ることがある	仕事の内容	人間関係（職場内でのいじめなど）	相手が伝わらない内容	相手の言い分が分からない	職場の（物理的な）不十分	勤務時間・日数	通勤距離・時間	通勤時の混雑	定期的な通院や健康管理との両立	急な体調の変化への配慮が無い	その他	困ることは特にない	無回答
総数		100.0 (285)	57.5	11.9	2.5	1.1	0.7	1.8	9.5	9.8	13.0	27.0	10.9	10.5	40.4	2.1
性別	男	100.0 (137)	59.9	12.4	2.2	2.2	1.5	1.5	9.5	13.1	12.4	24.8	14.6	12.4	38.0	2.2
	女	100.0 (148)	55.4	11.5	2.7	－	－	2.0	9.5	6.8	13.5	29.1	7.4	8.8	42.6	2.0
疾患群別	神経・筋疾患	100.0 (29)	65.5	13.8	－	3.4	3.4	6.9	10.3	10.3	13.8	20.7	10.3	13.8	34.5	－
	免疫系疾患	100.0 (36)	44.4	8.3	5.6	－	－	－	2.8	5.6	8.3	25.0	11.1	13.9	52.8	2.8
	循環器系疾患	100.0 (12)	58.3	33.3	8.3	－	－	－	16.7	16.7	16.7	16.7	－	－	41.7	－
	血液系疾患	100.0 (12)	50.0	8.3	－	－	－	－	8.3	8.3	50.0	－	－	－	50.0	－
	腎・泌尿器系疾患	100.0 (22)	63.6	18.2	－	－	－	4.5	18.2	13.6	18.2	36.4	4.5	－	31.8	4.5
	骨・関節系疾患	100.0 (17)	64.7	17.6	－	－	－	－	11.8	11.8	23.5	29.4	17.6	5.9	35.3	－
	呼吸器系疾患	100.0 (10)	70.0	20.0	10.0	10.0	－	－	20.0	10.0	20.0	30.0	10.0	－	30.0	－
	消化器系疾患	100.0 (122)	59.0	9.8	1.6	－	0.8	0.8	9.0	10.7	9.8	27.9	14.8	13.9	38.5	2.5
〔仕事の種類別〕	正規の職員・従業員	100.0 (148)	62.8	14.2	2.7	0.7	0.7	0.7	11.5	13.5	13.5	32.4	10.1	11.5	35.1	2.0
	会社等の役員	100.0 (19)	57.9	10.5	－	－	－	5.3	5.3	10.5	10.5	21.1	5.3	21.1	42.1	－
	非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））	100.0 (119)	51.3	9.2	2.5	1.7	0.8	2.5	7.6	5.0	12.6	21.8	12.6	7.6	46.2	2.5

注）疾患群別のうち、「聴覚・平衡機能系疾患」、「染色体または遺伝子に変化を伴う症候群」及び「耳鼻科系疾患」は該当者がいないため、「代謝系疾患」、「皮膚・結合組織疾患」、「内分泌系疾患」及び「視覚系疾患」は母数が少数のため、省略した。

2 経済基盤

(1) 収入の種類〔3つまでの複数回答〕－疾患群、年齢階級別

収入の種類は「年金・恩給」の割合が最も高く58.4%、また、「賃金・給料」が36.0%

平成29年中の収入の種類を聞いたところ、「年金・恩給」の割合が58.4%で最も高く、また、「賃金・給料」が36.0%、「手当」が17.0%となっている。

疾患群別にみると、「循環器系疾患」及び「消化器系疾患」では「賃金・給料」の割合がいずれも6割を超えている（68.2%、63.2%）。（表 V-6-1 本文276p）

表 V-6-1 収入の種類〔3つまでの複数回答〕－疾患群、年齢階級別

		総数	賃金・給料	事業所得	内職収入	家賃・地代	利子・配当	仕送り・小遣い	養育費・慰謝料	年金・恩給	生活保護費	手当	雇用保険	保険金・補償金	作業所等の工賃	その他の収入	収入はなかった	無回答
総数		100.0 (899)	36.0	2.4	0.2	3.9	2.6	2.0	－	58.4	3.4	17.0	0.3	1.7	－	3.6	6.5	0.8
疾患群別	神経・筋疾患	100.0 (238)	16.0	2.9	－	5.5	4.2	0.8	－	77.7	5.5	15.1	－	2.5	－	1.7	5.5	2.1
	皮膚・結合組織疾患	100.0 (37)	27.0	5.4	－	－	－	－	－	64.9	－	21.6	－	2.7	－	5.4	10.8	2.7
	免疫系疾患	100.0 (158)	31.0	1.9	0.6	3.2	3.2	2.5	－	54.4	6.3	20.3	0.6	2.5	－	5.7	7.6	0.6
	循環器系疾患	100.0 (22)	68.2	－	－	4.5	－	－	－	50.0	4.5	27.3	－	－	－	－	－	－
	血液系疾患	100.0 (36)	30.6	2.8	－	5.6	2.8	－	－	66.7	－	13.9	－	－	－	5.6	2.8	－
	腎・泌尿器系疾患	100.0 (40)	52.5	2.5	2.5	－	－	7.5	－	37.5	－	22.5	－	5.0	－	2.5	7.5	－
	骨・関節系疾患	100.0 (68)	30.9	2.9	－	5.9	2.9	4.4	－	70.6	4.4	20.6	1.5	－	－	4.4	－	－
	内分泌系疾患	100.0 (20)	40.0	－	－	5.0	－	－	－	40.0	－	5.0	－	5.0	－	5.0	20.0	－
	呼吸器系疾患	100.0 (38)	28.9	2.6	－	5.3	2.6	2.6	－	63.2	－	10.5	2.6	－	－	5.3	7.9	－
	視覚系疾患	100.0 (29)	24.1	－	－	－	－	－	－	82.8	－	17.2	－	－	－	－	3.4	－
	消化器系疾患	100.0 (204)	63.2	2.5	－	2.9	2.0	2.5	－	34.3	2.0	14.7	－	0.5	－	3.4	8.3	－
年齢階級別	29歳以下	100.0 (23)	91.3	－	－	－	－	8.7	－	13.0	4.3	47.8	－	4.3	－	4.3	－	－
	30～39歳	100.0 (57)	66.7	1.8	1.8	－	1.8	3.5	－	10.5	3.5	31.6	1.8	－	－	3.5	14.0	－
	40～49歳	100.0 (118)	76.3	1.7	0.8	1.7	2.5	2.5	－	5.1	2.5	28.8	－	0.8	－	5.1	8.5	0.8
	50～59歳	100.0 (144)	54.9	3.5	－	2.1	0.7	2.1	－	11.1	6.9	25.0	－	2.8	－	4.2	17.4	0.7
	60～69歳	100.0 (198)	36.4	2.0	－	5.6	2.5	3.0	－	75.8	3.5	14.1	0.5	2.0	－	4.0	5.1	1.5
	70～79歳	100.0 (228)	9.6	3.5	－	4.8	3.9	0.9	－	95.2	2.6	7.5	0.4	1.3	－	2.2	1.8	0.9
	80歳以上	100.0 (131)	1.5	1.5	－	6.1	3.1	－	－	96.9	1.5	6.9	－	1.5	－	3.1	0.8	－
	（再掲）65歳以上	100.0 (486)	13.0	2.5	－	5.3	3.5	1.0	－	94.9	2.7	9.1	0.2	1.6	－	2.5	1.2	0.6
平成25年度		100.0 (1,034)	29.2	3.2	0.4	5.6	2.6	2.2	0.1	61.4	0.2	24.2	0.5	1.1	0.3	3.6	6.6	0.6

注）疾患群別のうち、「聴覚・平衡機能系疾患」及び「耳鼻科系疾患」は該当者がいないため、「代謝系疾患」及び「染色体または遺伝子に変化を伴う症候群」は母数が少数のため、省略した。

(2) 年間収入額（生活保護費を除く）－疾患群、年齢階級別

年収は「50～100万円未満」の割合が17.7%

平成29年中の収入額を聞いたところ、「50～100万円未満」の割合が17.7%、「100～150万円未満」が11.2%となっている。（表V-6-2 本文279p）

表V-6-2 年間収入額（生活保護費を除く）－疾患群、年齢階級別

		総 数	収 入 な し	5 0 万 円 未 満	5 0 ～ 1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 ～ 1 5 0 万 円 未 満	1 5 0 ～ 2 0 0 万 円 未 満	2 0 0 ～ 2 5 0 万 円 未 満	2 5 0 ～ 3 0 0 万 円 未 満	3 0 0 ～ 3 5 0 万 円 未 満	4 0 0 ～ 4 5 0 万 円 未 満	5 0 0 ～ 5 5 0 万 円 未 満	6 0 0 ～ 6 5 0 万 円 未 満	7 0 0 ～ 7 5 0 万 円 未 満	8 0 0 ～ 8 5 0 万 円 未 満	9 0 0 ～ 9 5 0 万 円 未 満	無 回 答
総数		100.0 (899)	7.2	10.2	17.7	11.2	7.9	10.7	6.2	7.9	4.8	3.1	2.8	3.0	1.4	1.1	4.7
疾 患 群 別	神経・筋疾患 (238)	100.0 (238)	8.4	9.2	21.8	10.5	10.5	11.3	5.0	7.6	3.4	1.3	2.5	1.3	0.4	1.3	5.5
	皮膚・結合組織疾患 (37)	100.0 (37)	10.8	10.8	18.9	16.2	8.1	16.2	5.4	5.4	—	2.7	—	—	—	—	5.4
	免疫系疾患 (158)	100.0 (158)	8.9	15.2	22.2	12.0	10.1	11.4	1.9	5.7	2.5	1.9	1.9	1.3	1.9	—	3.2
	循環器系疾患 (22)	100.0 (22)	—	9.1	4.5	13.6	—	22.7	4.5	22.7	9.1	4.5	4.5	4.5	—	—	—
	血液系疾患 (36)	100.0 (36)	2.8	8.3	8.3	16.7	2.8	13.9	11.1	11.1	—	8.3	—	2.8	—	8.3	5.6
	腎・泌尿器系疾患 (40)	100.0 (40)	5.0	12.5	7.5	7.5	10.0	17.5	7.5	12.5	—	—	5.0	10.0	2.5	—	2.5
	骨・関節系疾患 (68)	100.0 (68)	1.5	8.8	19.1	14.7	5.9	11.8	14.7	5.9	2.9	4.4	1.5	5.9	—	1.5	1.5
	内分泌系疾患 (20)	100.0 (20)	15.0	—	10.0	5.0	10.0	5.0	10.0	—	10.0	10.0	—	5.0	5.0	—	15.0
	呼吸器系疾患 (38)	100.0 (38)	7.9	13.2	18.4	15.8	5.3	2.6	—	15.8	5.3	—	—	2.6	—	2.6	10.5
	視覚系疾患 (29)	100.0 (29)	3.4	10.3	10.3	20.7	13.8	6.9	3.4	10.3	3.4	3.4	—	3.4	—	—	10.3
	消化器系疾患 (204)	100.0 (204)	7.8	7.8	15.7	7.4	4.9	7.8	7.8	7.4	10.3	5.4	5.9	4.4	3.4	0.5	3.4
年 齢 階 級 別	29歳以下 (23)	100.0 (23)	—	17.4	17.4	13.0	8.7	—	13.0	8.7	17.4	—	—	—	—	—	4.3
	30～39歳 (57)	100.0 (57)	14.0	12.3	7.0	5.3	3.5	7.0	5.3	14.0	14.0	7.0	5.3	5.3	—	—	—
	40～49歳 (118)	100.0 (118)	10.2	9.3	11.9	2.5	2.5	8.5	5.9	7.6	11.0	9.3	8.5	6.8	4.2	0.8	0.8
	50～59歳 (144)	100.0 (144)	18.8	11.8	10.4	7.6	4.2	6.9	4.2	8.3	3.5	3.5	3.5	6.9	4.2	0.7	5.6
	60～69歳 (198)	100.0 (198)	6.6	10.6	21.2	12.1	12.1	10.6	4.5	9.1	3.5	0.5	2.0	1.5	—	2.0	3.5
	70～79歳 (228)	100.0 (228)	1.8	7.9	24.1	16.2	9.2	13.6	6.6	5.7	1.8	2.6	0.9	1.3	0.4	0.9	7.0
	80歳以上 (131)	100.0 (131)	0.8	10.7	19.1	15.3	9.9	15.3	9.9	6.9	1.5	0.8	0.8	—	0.8	1.5	6.9
	(再掲)65歳以上 (486)	100.0 (486)	1.6	8.8	22.4	15.8	10.5	14.0	6.8	6.8	2.3	1.4	1.0	0.8	0.4	1.2	6.0
平成25年度		100.0 (1 034)	6.6	13.5	22.3	11.3	9.2	9.1	5.8	7.4	3.6	2.5	2.4	2.3	1.1	0.9	1.9

注) 疾患群別のうち、「聴覚・平衡機能系疾患」及び「耳鼻科系疾患」は該当者がいないため、「代謝系疾患」及び「染色体または遺伝子に変化を伴う症候群」は母数が少数のため、省略した。

3 社会参加等

社会参加をする上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

－疾患群、平日の日中主に過ごしたところ別

社会参加をする上で妨げになっていることは、「病状に変化があること」の割合が26.1%

社会参加をする上で妨げになっていることがあるか聞いたところ、「病状に変化があること」の割合が26.1%となっている。一方で、「特にない」の割合は45.2%となっている。

（表 V-7-3 本文283p）

表 V-7-3 社会参加をする上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

－疾患群、平日の日中主に過ごしたところ別

		総 数	経 済 的 な 理 由	介 助 者 が い な い	情 報 が な い	周 り の 人 の 難 病 患 者 に 対 す る 理 解 不 足	病 状 に 変 化 が あ る こ と	病 状 に よ っ て 利 用 こ と で き る 施 設 が 無 い こ と	適 切 な 相 談 相 手 が い な い	一 緒 に 行 く 仲 間 が い な い	配 慮 が さ れ な い ※	ヘルプマークを 持っているが、	その他	特 に な い	無 回 答
総数		100.0 (899)	11.3	7.1	5.9	8.0	26.1	3.8	2.0	4.0	2.3	11.7	45.2	1.7	
疾患 群 別	神経・筋疾患	100.0 (238)	6.7	16.4	9.2	8.8	25.2	5.9	1.3	3.8	1.3	18.1	34.0	1.7	
	皮膚・結合組織疾患	100.0 (37)	10.8	5.4	10.8	2.7	27.0	5.4	2.7	2.7	－	5.4	54.1	2.7	
	免疫系疾患	100.0 (158)	17.7	5.7	5.1	8.2	35.4	4.4	1.3	4.4	3.8	10.8	39.2	0.6	
	循環器系疾患	100.0 (22)	18.2	－	－	13.6	27.3	－	－	4.5	9.1	13.6	50.0	－	
	血液系疾患	100.0 (36)	8.3	－	2.8	2.8	33.3	2.8	2.8	2.8	5.6	11.1	44.4	2.8	
	腎・泌尿器系疾患	100.0 (40)	10.0	－	－	15.0	20.0	－	2.5	2.5	7.5	5.0	62.5	2.5	
	骨・関節系疾患	100.0 (68)	8.8	8.8	2.9	5.9	14.7	2.9	2.9	4.4	2.9	11.8	52.9	4.4	
	内分泌系疾患	100.0 (20)	5.0	－	－	10.0	35.0	－	－	－	－	5.0	55.0	5.0	
	呼吸器系疾患	100.0 (38)	7.9	5.3	5.3	7.9	26.3	10.5	2.6	2.6	2.6	13.2	50.0	－	
	視覚系疾患	100.0 (29)	13.8	10.3	13.8	－	3.4	3.4	－	6.9	－	20.7	34.5	6.9	
	消化器系疾患	100.0 (204)	13.7	0.5	4.9	6.9	25.0	1.0	2.9	4.9	1.0	6.9	55.4	0.5	
主に平日の日中 過ごした ところ別	自分の家	100.0 (615)	10.9	8.1	6.3	8.0	29.3	3.9	2.1	4.2	2.3	12.8	40.3	1.6	
	職場（福祉的就労の施設を除く）	100.0 (225)	14.2	0.9	4.9	7.6	18.2	1.8	1.8	3.1	3.1	4.0	61.8	0.9	
	通所施設（生活介護、デイセンター、 地域活動支援センター等を含む）	100.0 (12)	16.7	16.7	8.3	16.7	41.7	8.3	－	8.3	－	41.7	8.3	－	
	入所施設・入院施設	100.0 (28)	3.6	35.7	7.1	14.3	25.0	17.9	－	7.1	－	28.6	25.0	－	
平成25年度		100.0 (1,034)	10.8	5.6	4.1	8.2	31.1	7.2	2.9	5.3	...	10.4	44.1	1.4	

注 1) 疾患群別のうち、「聴覚・平衡機能系疾患」及び「耳鼻科系疾患」は該当者がいないため、「代謝系疾患」及び「染色体または遺伝子に変化を伴う症候群」は母数が少数のため、省略した。

2) 平日の日中主に過ごしたところ別のうち、職場（福祉的就労の施設）は該当者がいないため、学校及びその他は母数が少数であるため、省略した。

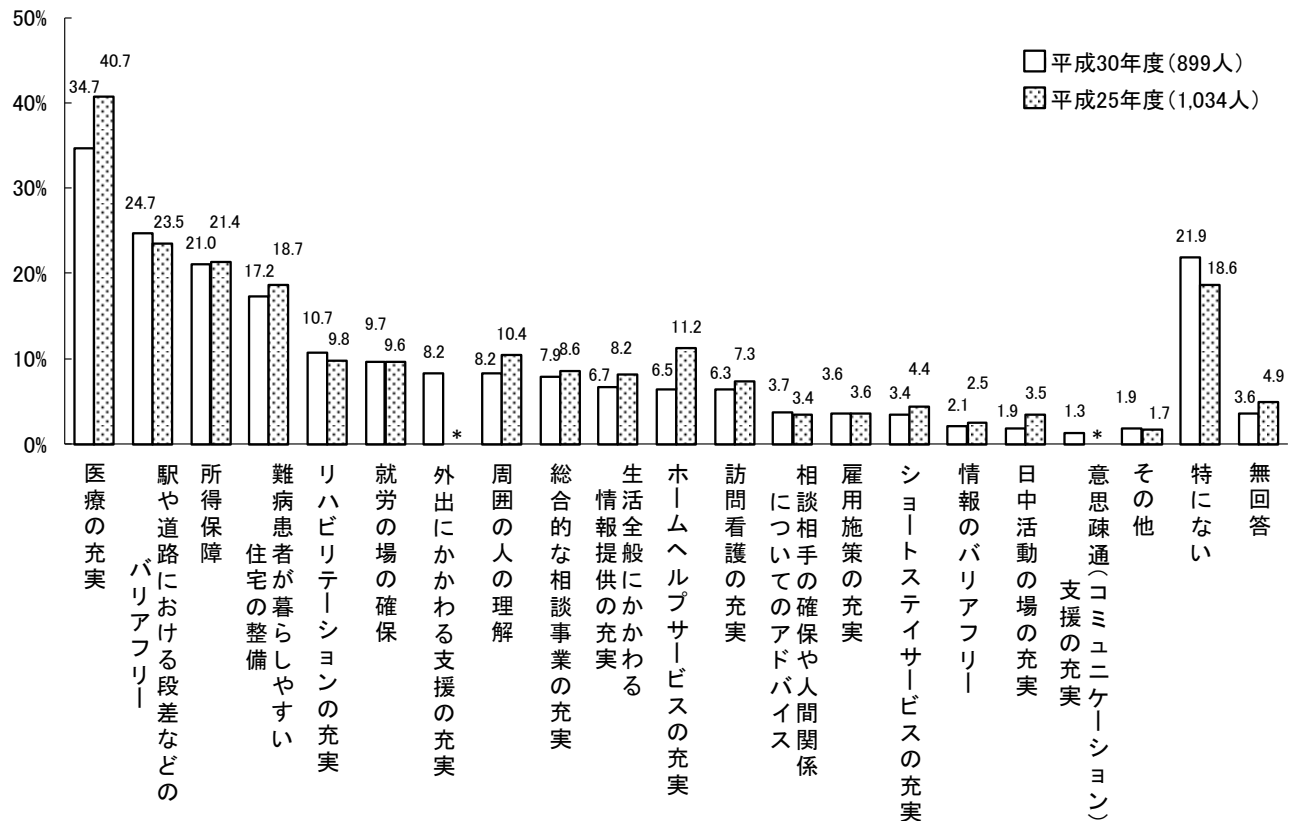
3) ※は、平成25年度調査では選択肢を設けていなかった。

4 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

「医療の充実」が必要であると答えた割合が34.7%

地域生活をしたり、しようとする上で、必要な福祉サービス等を聞いたところ、「医療の充実」の割合が34.7%、「駅や道路における段差などのバリアフリー」が24.7%、「所得保障」が21.0%となっている。（図V-10-1 本文301p）

図V-10-1 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕



注）*は、平成25年度調査では選択肢を設けていなかった。